

COGNEX

DataMan[®] Setup Tool

リファレンスマニュアル

06/21/2017

5.7.0.49

法律上の表示

本書で説明する本ソフトウェアは、ライセンスのもとで提供されており、かかるライセンス条項にしたがい、かつ本ページに記されている著作権表示を行うことを条件として使用および複製が許諾されます。本ソフトウェア、本書、あるいはそれらのコピーをライセンスの保有者以外に提供することはできません。本ソフトウェアのあらゆる権利は Cognex Corporation あるいは権限を有する第三者に帰属します。Cognex Corporation は、当社の供給によらない装置上での本ソフトウェアの使用または信頼性についていかなる責任も負いません。Cognex Corporation は、本ソフトウェアの商業性、非侵害または特定目的に対する適合性に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

本書の内容は、予告なしに変更することがあります。本書のいかなる内容も、Cognex Corporation が何らかの約束を実行するものと解釈されてはなりません。本書あるいは関連するソフトウェアに含まれる誤りについて、Cognex Corporation はいかなる責任も負いません。

本書で例として使用されている企業名、人名およびデータは、特に断りがない限り架空のものであります。本書のいかなる部分も、Cognex Corporation の書面による許諾なく複製すること、手段・方法・目的を問わず電子的または機械的に転載すること、他のメディアに変換すること、および他の言語に翻訳することを禁じます。

Copyright ©2017. Cognex Corporation. All Rights Reserved.

Cognex の提供するハードウェアおよびソフトウェアの一部は、下記のウェブサイトを示す米国およびその他の国の特許、または出願中の特許で保護されています。<http://www.cognex.com/patents>.

下記は Cognex Corporation の登録商標です。

Cognex, 2DMAX, Advantage, AlignPlus, Assemblyplus, Check it with Checker, Checker, Cognex Vision for Industry, Cognex VSOC, CVL, DataMan, DisplayInspect, DVT, EasyBuilder, Hotbars, IDMax, In-Sight, Laser Killer, MVS-8000, OmniView, PatFind, PatFlex, PatInspect, PatMax, PatQuick, SensorView, SmartView, SmartAdvisor, SmartLearn, UltraLight, Vision Solutions, VisionPro, VisionView

下記は Cognex Corporation の商標です。

The Cognex logo, 1DMax, 3D-Locate, 3DMax, BGAll, CheckPoint, Cognex VSoC, CVC-1000, FFD, iLearn, In-Sight (design insignia with cross-hairs), In-Sight 2000, InspectEdge, Inspection Designer, MVS, NotchMax, OCRMax, PatMax RedLine, ProofRead, SmartSync, ProfilePlus, SmartDisplay, SmartSystem, SMD4, VisiFlex, Xpand

その他の製品名および商標は、各所有者の商標です。

目次

法律上の表示	2
目次	3
シンボル	4
はじめに	5
DataMan Setup Tool について	5
概要	5
インストールとレイアウト	8
DataMan Setup Tool のインストールとリーダの接続	8
タブ	8
レイアウト	10
レイアウトのカスタマイズ	10
DataMan Setup Tool の使用	12
接続	12
迅速な設定	13
プロセスモニタ	18
設定比較	21
リアルタイムモニタ	22
ナビゲーション	23
スクリプト	24
テストモード	26
リードセットアップ	28
アクションとシステム	30
表示	30
画像ビューワ	31
結果ビューワ	33
バックステージページ	35
メンテナンス	35
バーチャルデバイス	35
復元	37
バックアップ	38
ファームウェア更新	39
デバイスのグループ分け	40
リーダグループ	40
カスタムグループ分け	41
マスタスレーブグループの管理	42
画像再生	44
オプション	45
ヘルプ	46
トラブルシューティング	48
画像取得	48
通信	48

シンボル

次のシンボルは、安全上の注意事項および追加情報を示します。

 **警告**：死亡、重症または感電の原因になる危険性があることを示します。

 **注意**：物的損害につながる可能性があることを示します。

 **注**：説明に関する追加情報を提供します。

 **ヒント**：理解を助ける示唆が示されています。

はじめに

DataMan Setup Tool について



DataMan Setup Tool を使用すると、読み取っているバーコードの画像をライブで見たり、読み取り不可画像を後で見直しできるように、FTP 経由で転送するようにリーダを設定することができます。

この強力なソフトウェアによって、使用するリーダの最初の設定や、パラメータの変更などが簡単になります。DataMan Setup Tool は、すべてのモデルに共通するプラットフォームです。最も使用頻度の高いコントロールを 1 ページにまとめることで導入を簡単にし、各設定がリーダにどのように作用するかをリアルタイムで確認することができます。

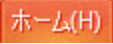
概要

リーダまたはベースステーションをご使用のコンピュータに接続する際は、次の手順に従ってください。

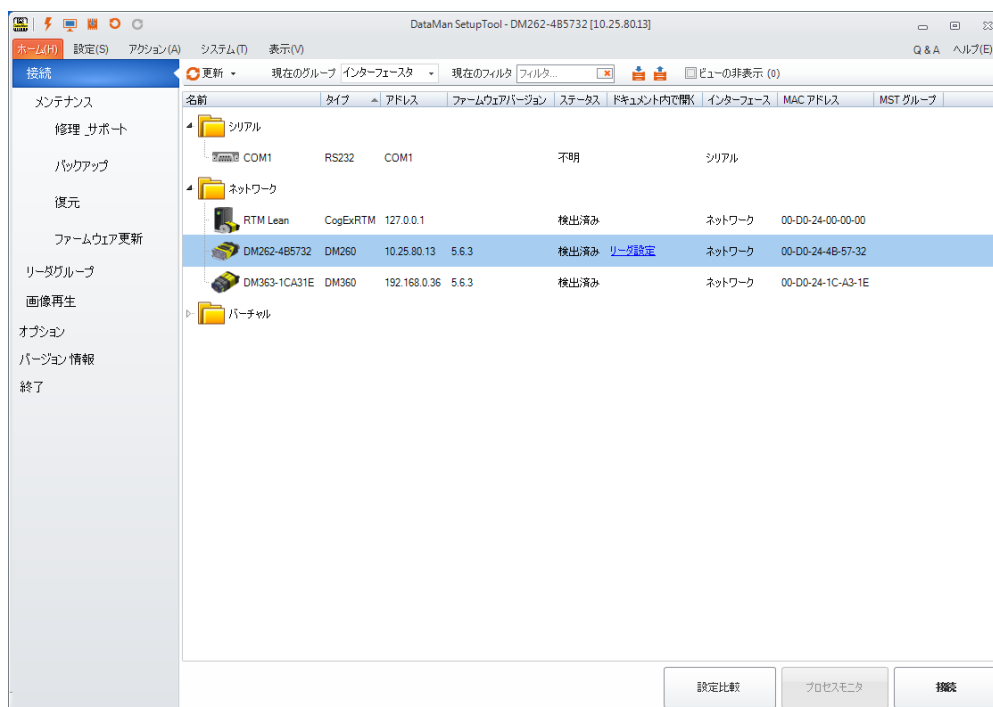
1. PC に DataMan Setup Tool を[インストール](#)します。
2. 適切な接続の種類を選択し、適切なケーブルを接続します。
3. デバイスの電源を入れます。

ユーザインタフェースは、次の主なコンポーネントで構築されています。

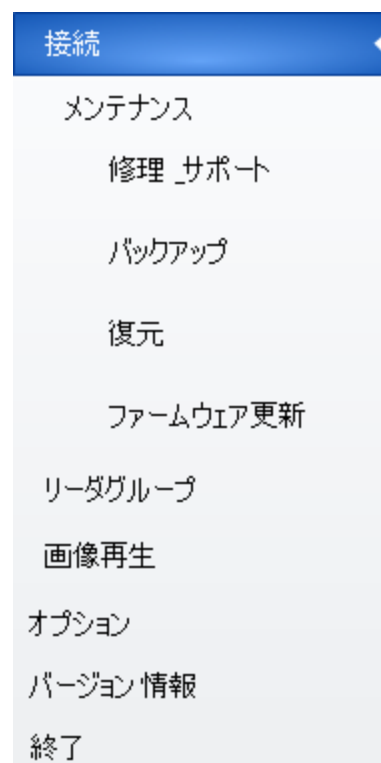
バックステージ: DataMan Setup Tool を起動すると、いわゆるバックステージが開きます。これによってデバイスでの作業開始 (デバイスへの接続、デバイスのモニタ、選択した 1 台または複数のデバイスのデータのモニタ)、プロセスモニタ、RTM Lean、設定の比較、現在使用可能なユーザ定義カスタムグループを編集用にリストアップなどの操作を開始する手段が提供されます。

このページには、[ホーム] () ボタンを使用してアクセスすることもできます。

例:

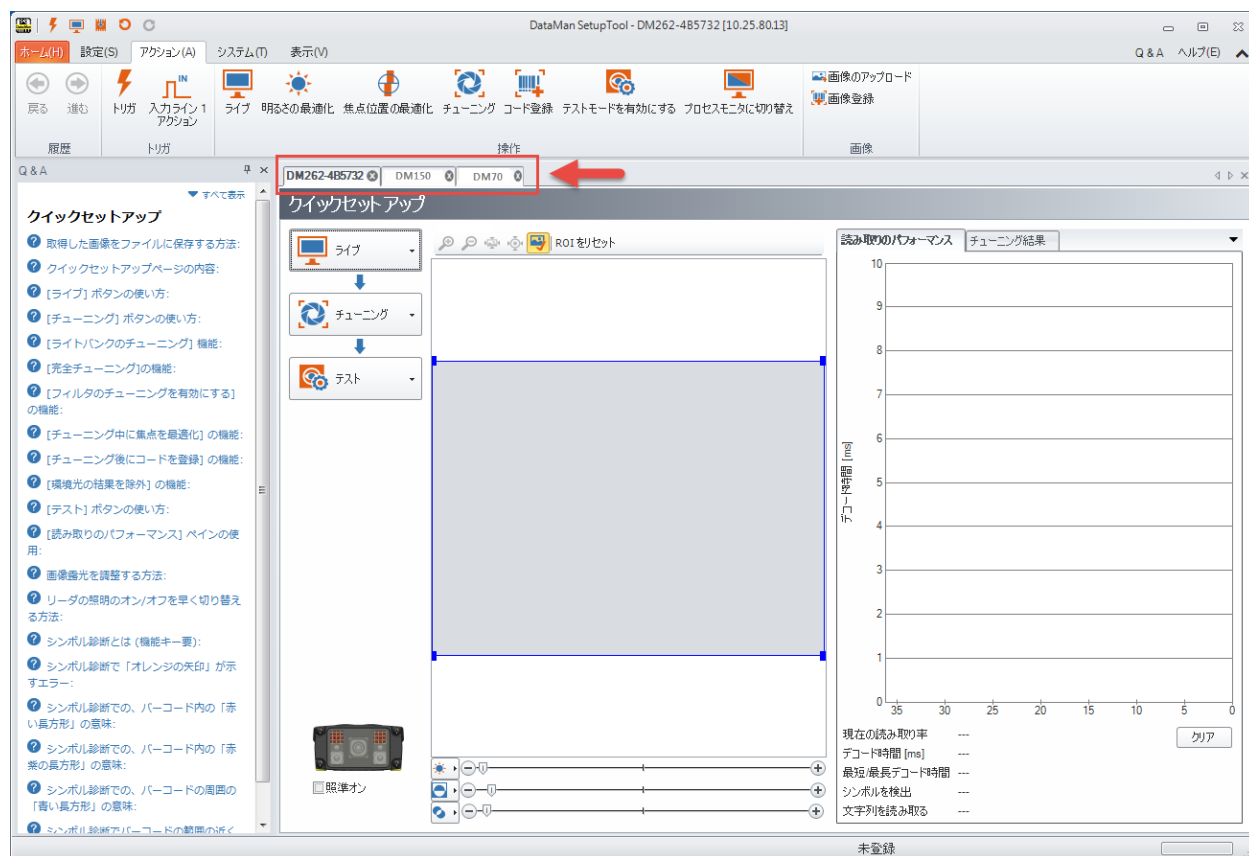


左側にあるタブを選択して、バックステージページ間を移動することができます。



ドキュメント: バックステージで該当する操作を選択すると (例えば、接続先のデバイスを選択して [接続] をクリックします)、新しいドキュメントが開きます。バックステージのコントロールは自動的に非表示になり、新しく開いたドキュメントが表示されて、ここが着目されます。複数のファイルが開いている場合 (例えば、複数のデバイス接続がある場合)、それぞれのドキュメントに固有のタブが表示されます。ドキュメントを切り替えるには、それぞれのタブをクリックします。

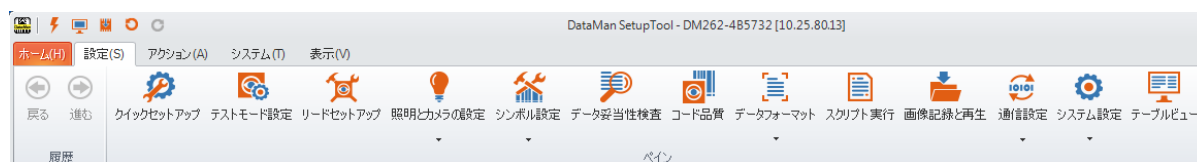
例:



現在アクティブなドキュメントのタイトルが**太字**で表示されます。ドキュメントを切り替えるには、関連するタブをクリックします。ドキュメントを閉じるには、タブの右上隅にある  をクリックします。

リボン: ウィンドウの上部には操作状況によって異なるリボンが表示され、ドキュメントの種類ごとに項目が異なります (ボタン、チェックボックスなど)。リボンには、現在アクティブなドキュメント用のコントロールが表示されます。

例:



リボンバーは操作状況によって異なります。つまり、その項目 (ボタン、チェックボックスなど) はドキュメントの種類ごとに異なり、現在アクティブな (選択されている) ドキュメント用のコントロールが表示されます。

次の節では、ソフトウェアのインストールおよび GUI のコンポーネントの詳細について説明します。

インストールとレイアウト

この節では、DataMan Setup Tool のインストール方法、外観、およびレイアウトのカスタマイズ方法について説明します。

DataMan Setup Tool のインストールとリーダの接続

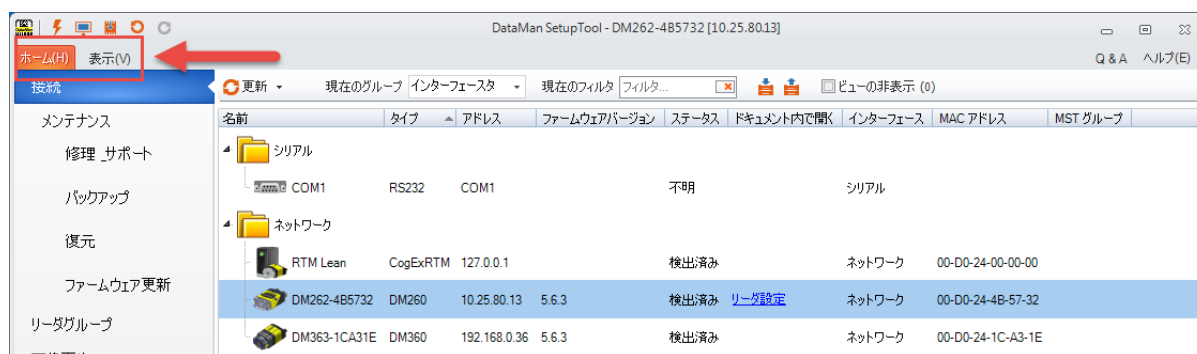
次の手順を実行して DataMan ソフトウェアを PC にインストールし、これを使用してそれぞれの DataMan リーダの設定を行います。

1. DataMan リリースノートでシステムの要件をすべて確認してください。
2. **DataMan Setup Tool** を <http://www.cognex.com/support/dataman> からダウンロードし、画面に表示される手順に従ってください。
インストールユーティリティが自動的に開始しない場合は、インストールフォルダ内の **setup.exe** ファイルをダブルクリックします。
3. DataMan リーダを PC に接続します。
4. **[スタート] → [Cognex] → [DataMan Software vX.X.X] → [Setup Tool]** を選択して、Setup Tool を起動します (ここで **vX.X.X** はソフトウェアの関連リビジョンを表します)。
5. **[接続]** メニューで **[更新]** をクリックして、PC の通信ポートに接続されている DataMan リーダを Setup Tool で自動検出させます。
お使いのネットワーク上で使用可能な DataMan リーダが **[接続]** メニューに表示されます。
6. お使いの DataMan リーダに対応する COM ポートまたはネットワークデバイスをリストから選択し、**[接続]** をクリックします。

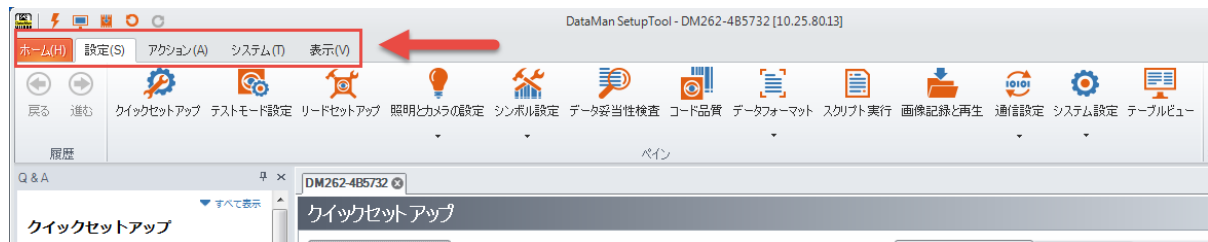
最新の情報については、英語版のマニュアルを参考にしてください。一部のリリースに付属する翻訳版のマニュアルには、最新のアップデートは含まれていない場合があります。

タブ

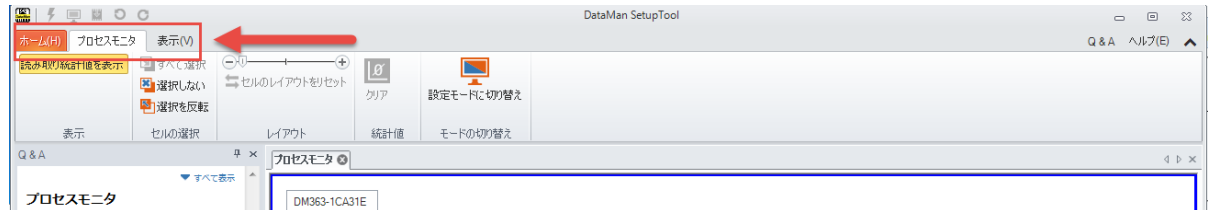
DataMan Setup Tool のタブは、状況によって異なります。初めて DataMan Setup Tool を開くときには、**[ホーム]** と **[表示]** の 2 つのタブが表示されます。



デバイスを選択して接続すると、使用可能なタブが増えます。



また、現在使用中のドキュメントに基づいてタブが変わります。例えば、[プロセスモニタ](#)の使用時には次のタブがあります。



タブとその機能については、それぞれのビューとともに、本書のこの後の節で説明します。

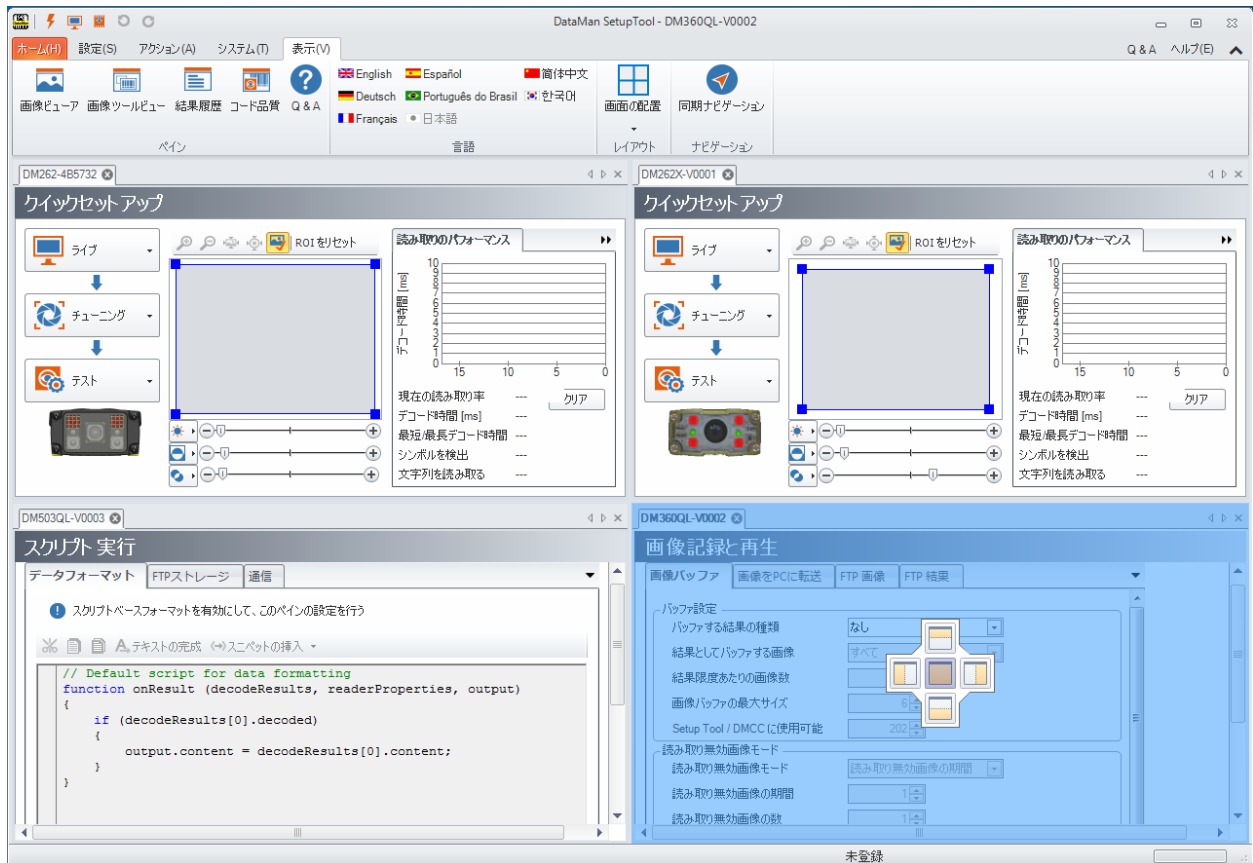
レイアウト

DataMan Setup Tool によって、コンピュータ画面に適合するようレイアウトを構成したり、必要なコンポーネントを大きく表示し、あまり使用しないものは小さく表示したりすることができます。

レイアウトのカスタマイズ

前節での説明のとおり、DataMan SetupTool のレイアウトはカスタマイズ可能です。アプリケーションのコンポーネントに関して、次のようなカスタマイズが可能です。

- タブ構成にする
- 表示されたままになるようにピン留めする
- マウスが移動した時に自動的に非表示になるようにピンを外す
- メインウィンドウのさまざまな場所にドッキングする
- アプリケーションからドッキングを解除して別のウィンドウにする



選択したドキュメントをどの場所にもドラッグ & ドロップできますが、[ビュー] の下のリボンでも、ウィンドウを水平方向または垂直方向にタイル表示することができます。



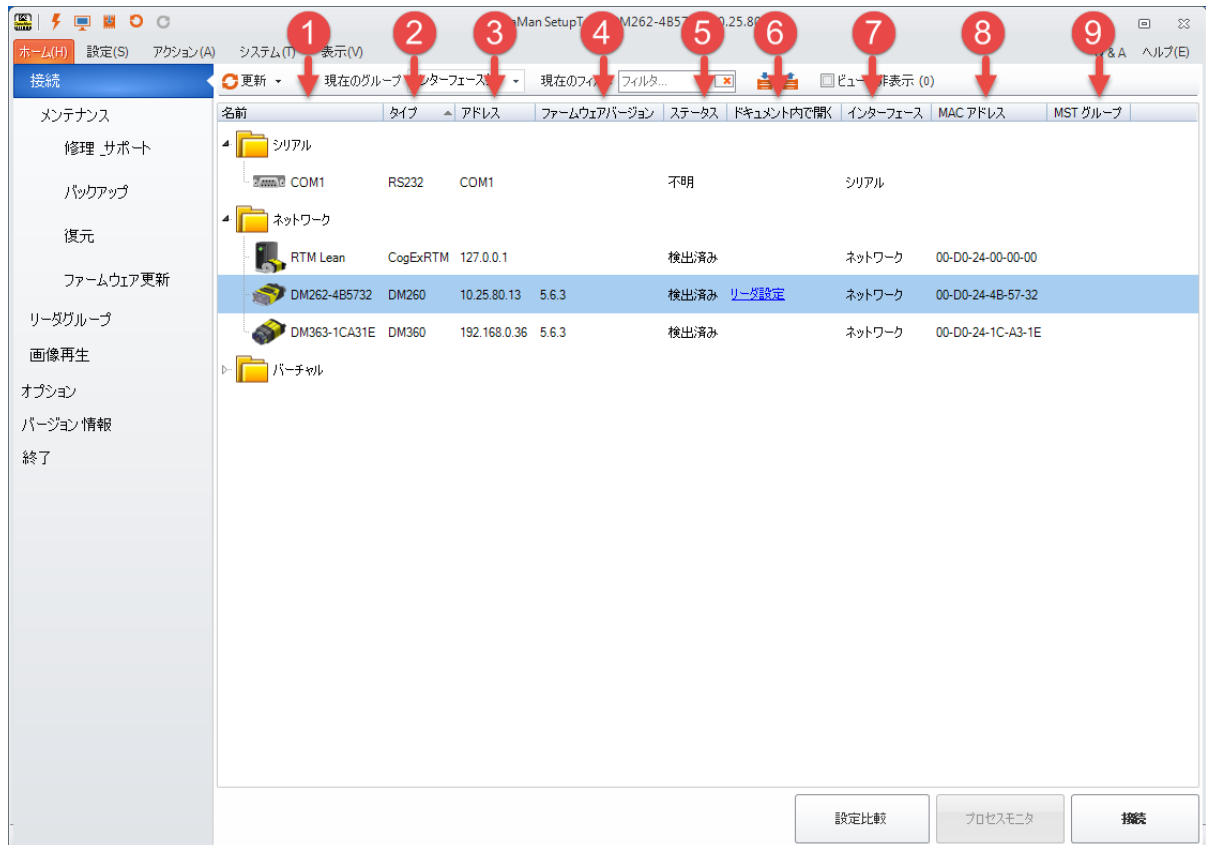
DataMan Setup Tool の使用

この節では、DataMan Setup Tool を介してデバイスに接続する方法について説明し、リーダの設定およびコードの読み取りを行うときに使用できる、最も本質的な機能に関する情報も記載しています。

接続

[接続] ページでは、単一デバイスへの接続、または複数デバイスへの同時接続を行うことができます。デバイスはツリー構造で表示されます。このツリー構造では、各デバイスに関する詳細情報が別々の列に表示されます。

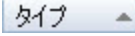
詳細情報の項目は次のとおりです。

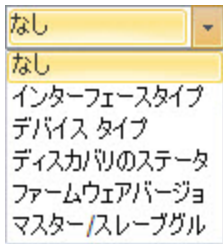


1. デバイスの名前とアイコン
2. デバイスの種類
3. デバイスのアドレス (IP アドレスまたはポート)
4. ファームウェアバージョン
5. ステータス (検出済み、設定エラー、Conflicting (競合)、In use (使用中) など)
6. リンク先のドキュメント内でリーダが開かれている
7. インタフェース (シリアル、ネットワーク、HID など)
8. デバイスが検出された NIC (MAC アドレス)
9. マスタ/スレーブグループ分けの場合に、デバイスが属するマスタグループ

[更新] をクリックして、使用可能なデバイスおよびその設定のリストを更新します。

ツリーおよびグリッド状のデバイスリストコントロールには、次のオプションが備わっています。

- **ソート:** グリッド内の各カラムは、カラムのヘッダをクリックすると、アルファベットの昇順および降順の両方向でソートすることができます。ソート方向は三角形で示されます。例えば、 または  です。この三角形は、ソートされている列にのみ表示されます。デフォルトでは、[タイプ] 列は昇順でソートされています。
- **グループ分け:** 検出されたデバイスを表示するときに、さまざまなグループ分けを使用することができます。組み込みのグループ分けから選択できますが、カスタムのグループ分けを定義することもできます。あらかじめ用意されているグループ分けは次のとおりです。



これらのグループ分けは、グリッドの関連するカラム内のデータに基づいています。指定されたコンボボックスを使用して、一度に 1 つだけグループ分けを選択することができます。デフォルトのグループ分けは [なし] です。

リーダのグループ分けの詳細については、「[デバイスのグループ分け](#)」の節を参照してください。

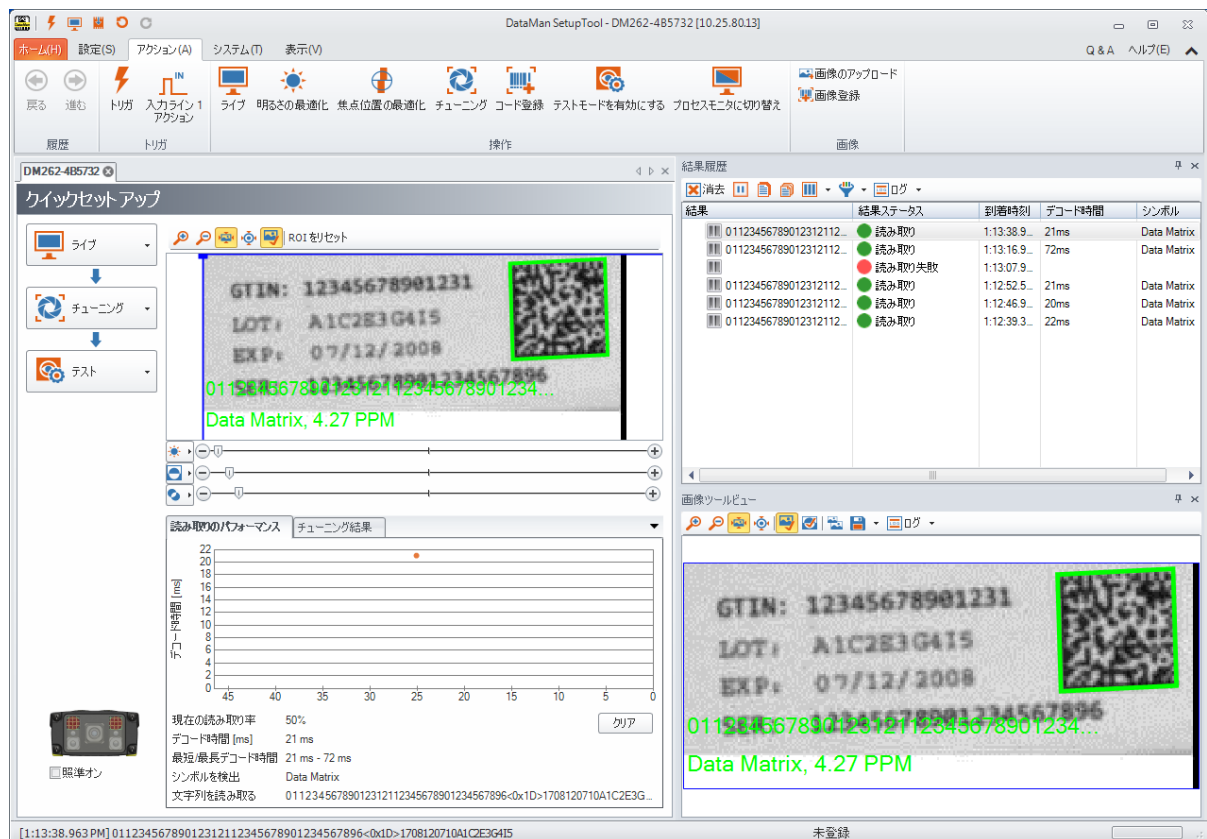
- **フィルタリング:**  テキストフィールドでは、入力された文字に基づいて、検出されたデバイスのリストをフィルタリングします。デバイスのリストは、キーストロークごとのフィルタリングに基づいて更新されます。フィルタリングテキストをクリアするには、フィルタテキストを削除するか、またはクリア () ボタンをクリックします。フィルタテキストは、デバイスリストのグリッド内の各カラムと照合され、フィルタテキストに入力されているテキストを含んでいるカラムを持つ行のみが表示されたままになります。
- **デバイスツリーの展開/折りたたみ:** 表示されるデバイスのツリーは、完全に折りたたんだりノード別に展開したりできます。全体の折りたたみまたは展開は、指定されたボタン (展開: , 折りたたみ: ) で行い、一方で、ノードごとの折りたたみまたは展開は、該当するノードの折りたたみ/展開の三角形 () をクリックして行うことができます。
- **非表示のデバイスの表示:** ☒ **View Hidden (2)** チェックボックスを選択して、非表示のデバイスを表示することができます。

1 つ以上のデバイス (クリック/Ctrl キーを押したままクリック/Shift キーを押したままクリック) を選択した後、**[接続]** ボタンをクリックするか、またはデバイスをダブルクリックして接続を開始することができます。選択したデバイスに対して接続が開始され、ドキュメントが別々に開きます。

デバイスへの接続時に「デバイスのドキュメント」が開き、専用のタブが設定されます。そのようなデバイスの場合、デバイスリストページの **[ステータス]** 列に「In Use (使用中)」と表示されます。このドキュメントタブを閉じると、接続が閉じます。デバイスが再起動した場合 (ファームウェアの更新などのため)、ドキュメントタブは開いたままになっており、進捗バーおよびメッセージによって、デバイスの現在の状態が通知されます。接続が失われた場合でも、ドキュメントタブが自動的に閉じることはなく、オーバーレイメッセージによってこのイベントについて通知されます。リーダがオフラインになった場合は、デバイスがオンラインに戻るか、ドキュメントタブを閉じるまで、メッセージとともにオーバーレイがそこに表示されたままになります。

迅速な設定

デバイスに接続すると、**[設定]** タブにリダイレクトされ、**[クイックセットアップ]** ページが開きます。



このページでは、接続されたデバイスの設定、チューニング、およびテストのプロセスを実行することができます。

デバイスを迅速に設定するため、次の主な手順を実行することを推奨します。

- ライブ
- チューニング
- テスト

これらの機能は、左側の 3 つの大きなボタンを使用して表示することができます。それぞれのボタンには、追加の設定を行うためのドロップダウンメニューが組み込まれており、これはボタンの右端をクリックすると開きます。

例:



ライブ

[ライブ] ボタンをクリックして「ライブモード」に入ります。ライブモードでは、デバイスの撮像状況をモニターするだけでなく、デコードもします。[ライブ] ボタンのドロップダウンメニュー (上記を参照) にはさらにオプションがあり、ライブモードの設定およびリーダの設定を行うことができます。

次のコントロールには、頻繁に使用されるリーダ設定のサブセットが備えられており、DataMan Setup Tool の他のペインのコントロールの複製となっています。

- デバイスで取得した画像をデコードする場合は、**[デコード中]** のチェックボックスをオンにします。
- **[焦点フィードバック]** にチェックを入れると、画像ビューの右側に色分けされたメーターが表示されます。このメーターは、レンズの焦点を示します (低いほど焦点が合っていない)。
- 最適な露光設定を自動的にリーダに判断させる場合は、**[自動露光]** オプションを選択します。

画像ビューでは、青い ROI ボックスをスライド/ドラッグして、リーダの対象領域 (ROI) を変更することができます。この領域に対して、リーダは読み取りを実行しようとします。

チューニング

[チューニング] ボタンをクリックすると、読み取りに最適な設定が自動検出されます。詳細ウィンドウには、次の機能が表示されます。

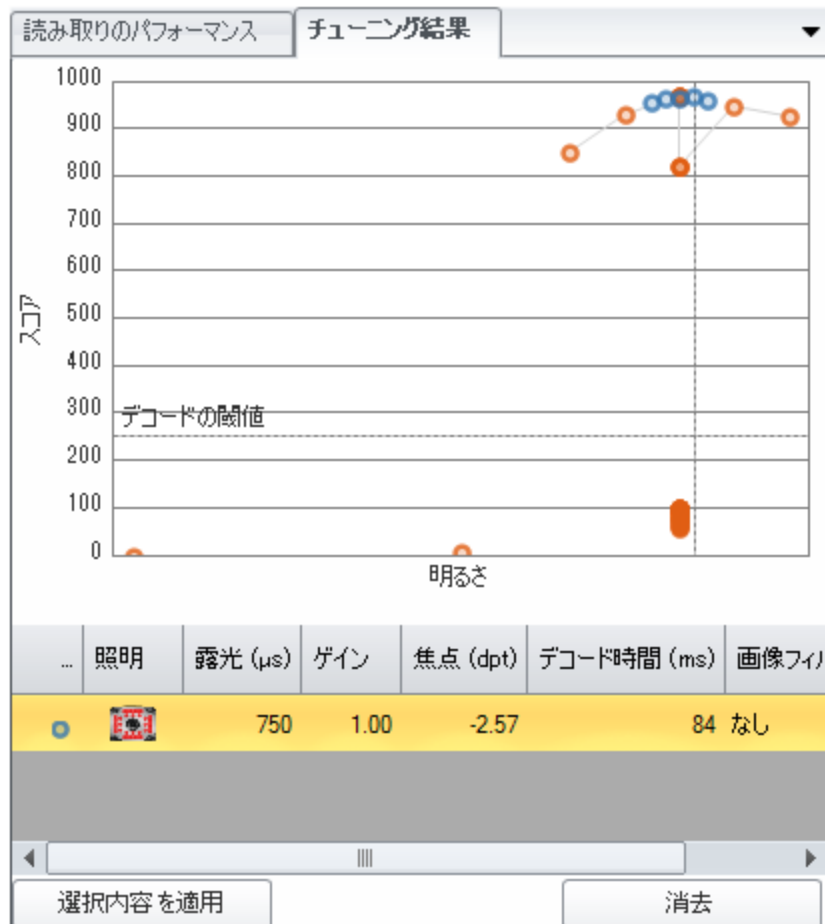
- デバイスに推奨される明るさが自動的に設定されるようにする場合は **[明るさの最適化]** をクリックします ([マニュアル露光] が設定されている場合にのみ使用可能)。または、詳細設定を行う場合は、ボタンの隣にあるリンクをクリックして、**[照明とイメージャの設定]** の該当するペインに移動します。あるいは、画像の下の明るさのアイコンをクリックするか、またはスライダを使用して、明るさを手動で設定します。
- **[自動露光]** または **[マニュアル露光]** から、アプリケーションに適切な選択を行います。カメラのゲインは、別のスライダで制御することができます。
- **[マニュアル露光]** が設定されている場合は、次の **[トリガの種類]** のいずれかでリーダを設定することができます (一部のトリガの種類は、すべてのデバイスで使用できるわけではありません)。
 - **シングル** ではリーダがトリガを検知すると、画像を 1 枚取得してその画像に含まれるシンボルのデコードを試行します。このトリガモードはタイムアウト設定に対応しています。

- **自動読み取り**ではシンボルのスキャンを継続して行い、シンボルを見つけるたびにデコードが行われます。
- **マニュアル**ではトリガ信号がアクティブの間はずっと画像を取得します。シンボルを検知してデコードを行うか、トリガ信号が終了すると停止します。
- **バースト**では一定数の画像を取得し、そのグループ内で検知した最初のシンボルをデコードします。バーストで取得する画像数、画像の取得間隔が設定できます。このトリガモードはタイムアウト設定に対応しています。
- **セルフトリガ**では、自動読み取りのようにリーダがシンボルのスキャンを継続して行い、シンボルを見つけるたびにデコードが行われます。
- **連続**ではトリガ信号がアクティブの間はずっと画像を取得します。リーダは特定の間隔で画像の取得を続け、目的の画像に含まれるシンボルをスキャンしていきます。
- **タイムアウト**は、デコード中に、読み取りが読み取り失敗とみなされるまでの間、デバイスが待機する時間です。
- コードの種類の前にあるチェックボックスをオンにして、読み取るシンボルを選択することができます。下部のリンクからより詳細なオプションおよびコードの種類を設定できる **[シンボル設定]** ペインに移動します。
- デバイ스에 推奨される焦点位置が自動的に設定されるようにする場合は **[焦点位置の最適化]** をクリックします。または、詳細設定を行う場合は、ボタンの隣にあるリンクをクリックして、**[照明とカメラの設定]** の該当するペインに移動します。あるいは、画像の下にある焦点アイコンをクリックするか、または手動による焦点設定用のスライダを使用します。

① 注： これはリキッドレンズの使用時にのみ表示されます。

- **[コード登録/コード登録解除]** をクリックして、コードを登録または (コードが既に登録済みの場合は) 登録解除するか、あるいはボタンの隣にあるリンクをクリックして、アドバンスド登録設定に移動します。

右側の **[チューニング結果]** ペインに、詳細なチューニングのグラフが表示されます。



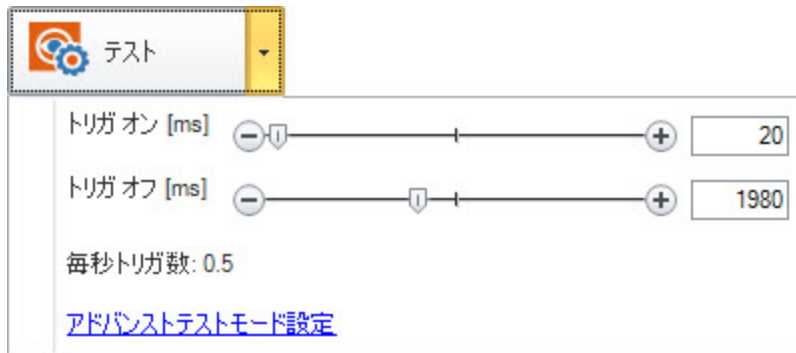
推奨される結果以外を選択するには、クリックしてからいちばん下の行にある **[選択内容を適用]** をクリックします。

- **[照明用バンクのチューニング]** では、デバイスが照明バンクをチューニングします。使用する照明設定が決まっている場合は、無効にしてご使用ください。
- **[詳細チューニング]** を選択すると、「強制的に」照明バンクがチューニングされます。詳細チューニングをオフにした状態の時に、初期の照明設定（シーケンスで最初のもの）でリーダーがコードの読み取りに成功すると、他の照明バンクの組み合わせを試行しなくなります。詳細チューニングがオンになっていると、リーダーは最初の読み取り結果に関わらず、すべての組み合わせを試してベストなものを探します。
- **[フィルタチューニング]** を選択すると、DataMan Setup Tool で読み取り画像にフィルタが適用されます。コード読み取りに成功した際に使用したフィルタが、[チューニング結果] ペインの **[画像フィルタ]** に表示されます。
- チューニング中に自動的に焦点が最適化されるようにする場合は、**[チューニング中に焦点を最適化]** オプションにチェックを入れます。
- チューニング後に読み取りコードをデバイスに登録するには、**[チューニング後にコードを登録する]** にチェックを入れます。見つかったコードは DataMan Setup Tool ウィンドウの下部に表示されます。

① 注： この機能を使用している場合、DataMan Setup Tool では見つかったコード種類を認識するだけなので、読み取り対象としてその他のコード種類を使用しないでください。

テスト

[テスト] ボタンをクリックして、生産を中断することなくデバイスの設定をテストします。



[ライブ] ボタンで外部トリガタイプ（つまり、自動読み取りやセルフトリガモード以外）を選択した場合、**テストモード**を使用してリーダーが自動的にトリガされるようにして、アプリケーションの検証とテストを行うことができます。**[トリガオン]** および **[トリガオフ]** 時間を使用して、リーダーに適切なデューティサイクルを設定することができます。計算されたトリガ頻度が表示されます。

[トリガオン] または [トリガオフ] 時間のいずれかを短縮すると、サイクル時間を短縮し、トリガ頻度を上げることができます。

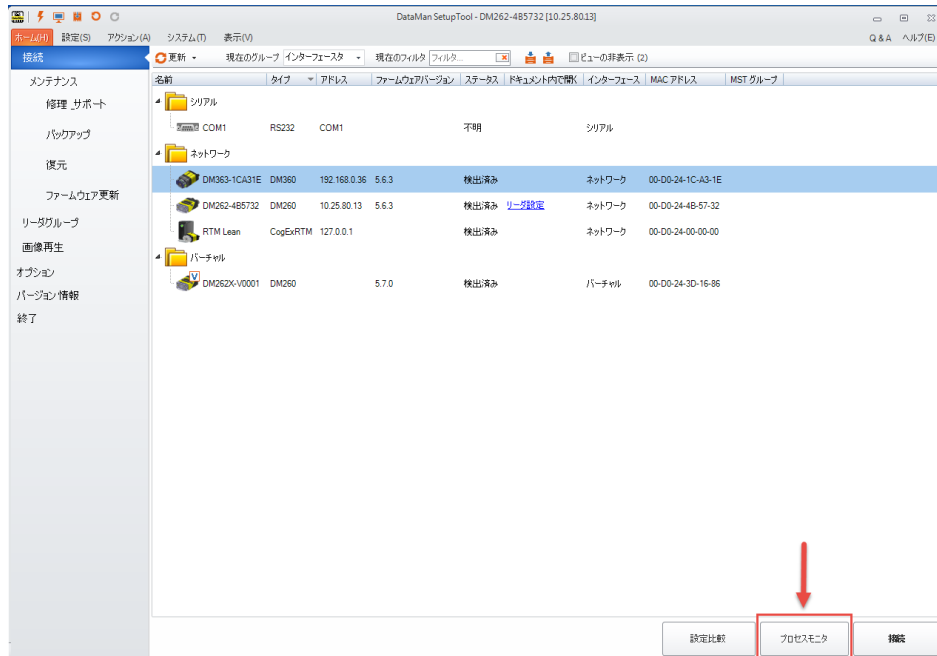
① 注： リードセットアップ、読み取るコード、および接続インタフェースに応じて速度制限があり、高速であるほど画像転送を無効にすると良い場合があります。詳細については、DataMan Setup Tool の [Q & A] ペインを参照してください。

読み取りのパフォーマンス

右側の **[読み取りのパフォーマンス]** ペイン内のグラフを使用して、デコード時間および読み取り率をリアルタイムでモニタすることができます。グラフをリセットするには、**[クリア]** ボタンをクリックします。

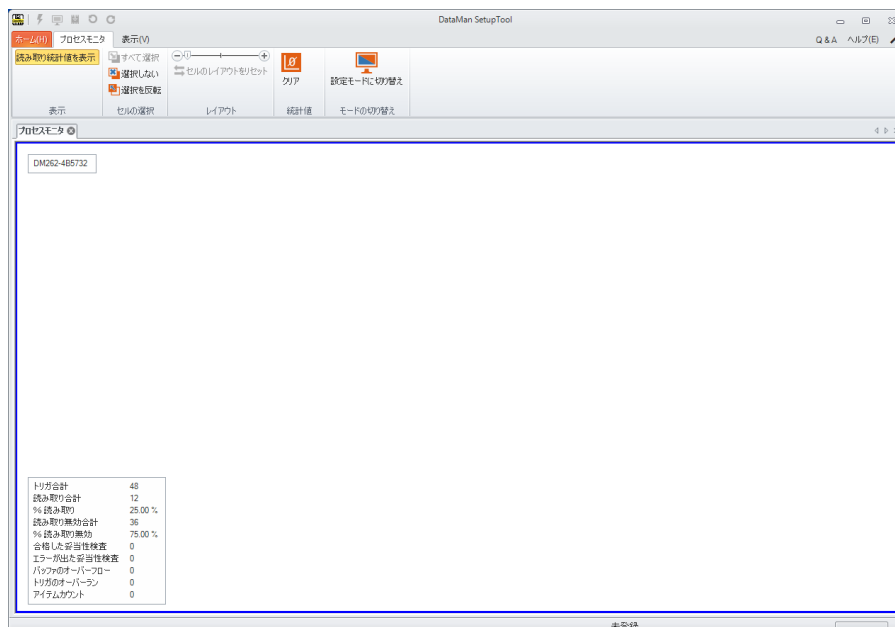
プロセスモニタ

プロセスモニタを使用すると、動作への割り込みを最小限に抑えながら 1 台以上のデバイスの動作を同時に確認できます。このページには、[\[接続\]](#) からアクセスすることができます。



プロセスモニタ

リストから 1 台以上のデバイスを選択して **プロセスモニタ** ボタンをクリックすると、プロセスモニタのドキュメントが 1 つ開き、ここに選択した 1 台または複数のデバイスのモニターデータが表示されます。



2 台以上のデバイスを選択した場合でも、すべてプロセスモニタに表示されますが、プロセスモニタに新しいデバイスを追加するに

プロセスモニタ

追加先: プロセスモニタ

は、[接続] ページで **[追加先: プロセスモニタ]** をクリックします。これは、**[プロセスモニタ]** ボタンの下向き矢印をクリックすると使用することができます。

このオプションの詳細については、「[マルチリーダプロセスモニタ](#)」を参照してください。

マルチリーダのサポート

DataMan Setup Tool は、複数のリーダに同時に接続することができます。接続する 1 台以上のデバイスを、**[接続]** バックステージ ページで選択することができます。

マルチリーダプロセスモニタ

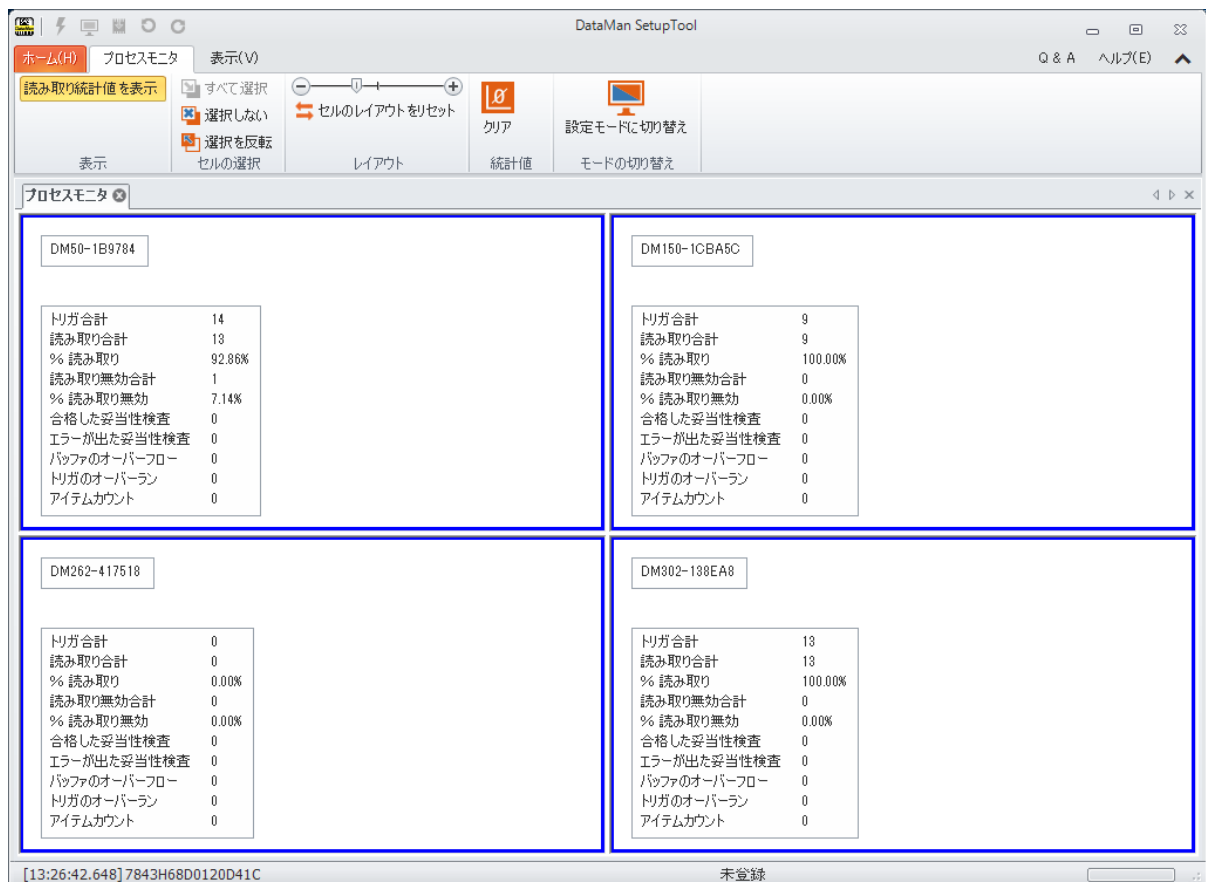
DataMan Setup Tool は、複数の DataMan リーダのパフォーマンス統計を 1 つの **プロセスモニタ** ビューに表示することができます。**[プロセスモニタ]** バックステージ ページに、モニタするリーダが表示されます。1 台以上のデバイスを選択し、

プロセスモニタ

ボタンをクリックして新しい **[プロセスモニタ]** ドキュメントタブを開くと、選択したリーダのリアルタイムの統計が表示されます。

1 つの **[プロセスモニタ]** タブで、2 つ以上の DataMan リーダをモニタすることができます。モニタ対象のすべてのリーダに関する統計パネルが開き、それぞれのリーダに関する読み取りカウントと読み取り無効カウント、パーセンテージおよびその他の統計的データが表示されます。このパネルはタイルスタイルで配置されます。

例:



読み取り統計データの表示は、リボン上のボタン **読み取り統計値を表示** をクリックして、オン/オフを切り替えることができます。



実行時中いつでも、リボン上の **[クリア]** (クリア) ボタンをクリックして、選択したパネル内の読み取り統計をクリアできます。**[セルの選択]** リボングループのボタンを使用すると、大量のアクションを実行する前に、複数のリーダを簡単に選択することができます。

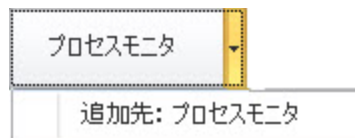


プロセスモニタのドキュメントタブを 2 つ以上作成して、さまざまなデバイスまたはデバイスグループに関する統計データを表示することができます。

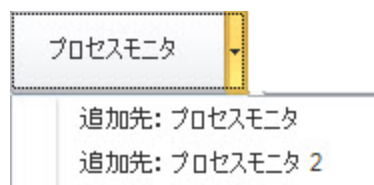
注： 1 台のデバイスは、一度に 1 つのプロセスモニタドキュメントでのみ開くことができます。既にプロセスモニタドキュメント内で開いているか、または設定のために開いているデバイスは、**[プロセスモニタ]** バックステージページで薄く表示されており、**[使用中]** として示されます。

プロセスモニタビューを閉じるには、タブのタイトルの左にある **✕** ボタンをクリックします。タブのタイトルは自動生成されますが、タブの名前を変更することができます。

既に開いているプロセスモニタビューに、リーダを追加することができます。少なくとも 1 つのプロセスモニタビューが開始され、既存のプロセスモニタビューがドロップダウンメニューに一覧表示されている場合、**[プロセスモニタ]** ボタンはドロップダウンボタンになります。リーダを既存のビューに追加するには、**[追加先]** オプションをクリックします。



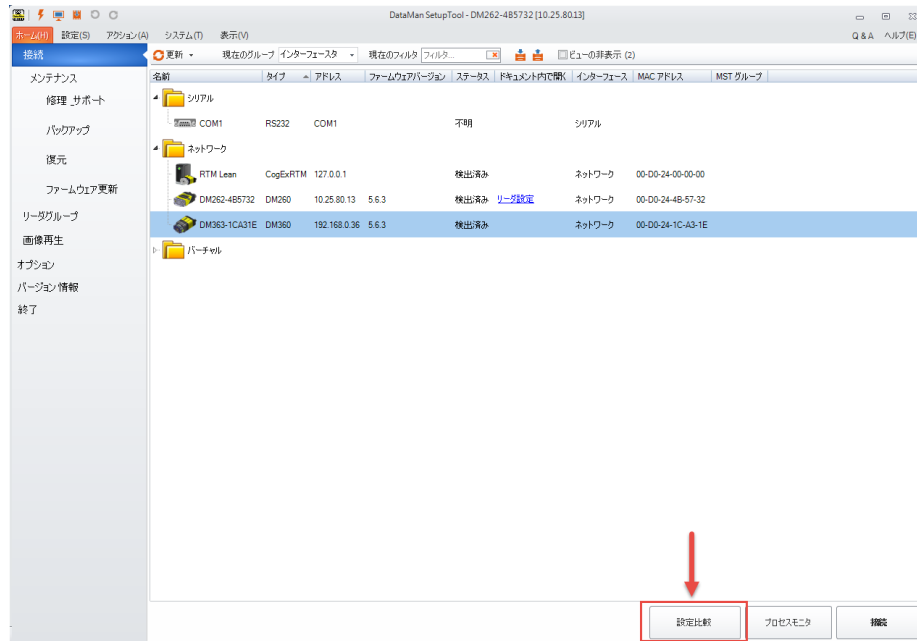
2 つ以上のプロセスモニタが開いている場合、新しく選択したデバイスを追加できるプロセスモニタのリストが表示されます。



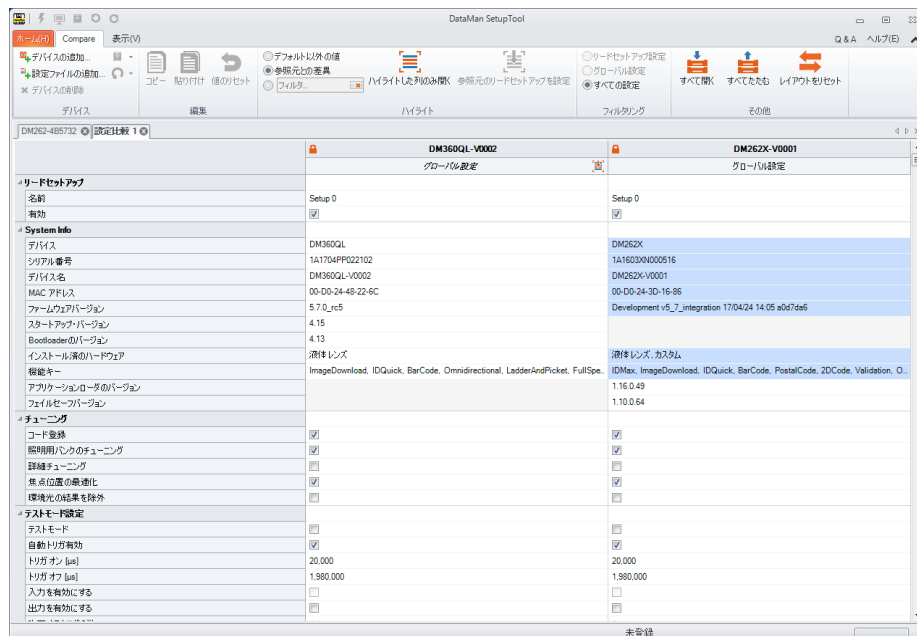
リーダをプロセスモニタビューから削除するには、個々の統計パネル上にマウスをかざすと表示される、右上隅の **[X]** ボタンをクリックします。

設定比較

[設定比較] は、デバイスの設定を変更、コピー、比較、またはデバイス設定のリストアに使用するテーブルビュースタイルのツールであり、ユーザが複数のデバイスの設定の同期や不整合のチェックを迅速に行うことができます。デバイスリストから複数のデバイスを選択して [設定比較] ボタンをクリックし、表示された新しいドキュメントでツールを起動します。



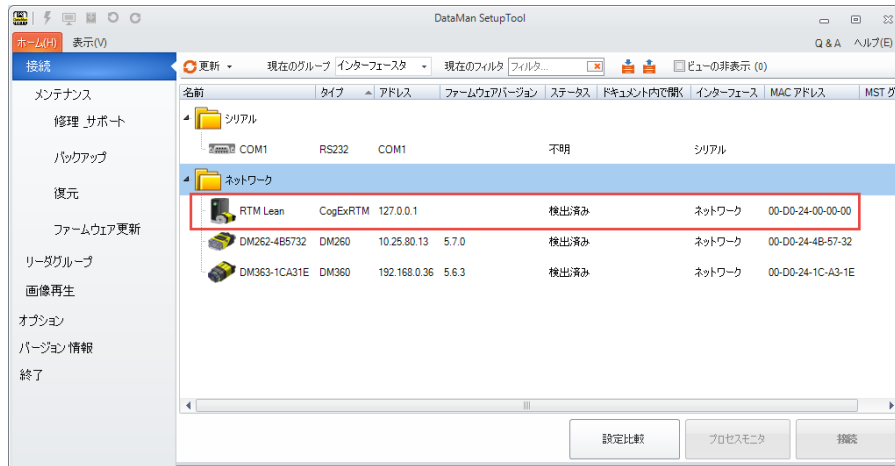
表示された新しいドキュメントでは、選択したデバイスのすべての設定がテーブルビューに表示され、上部のリボンメニューを使用して、これらの設定に関連するいくつかのアクションを実行することができます。



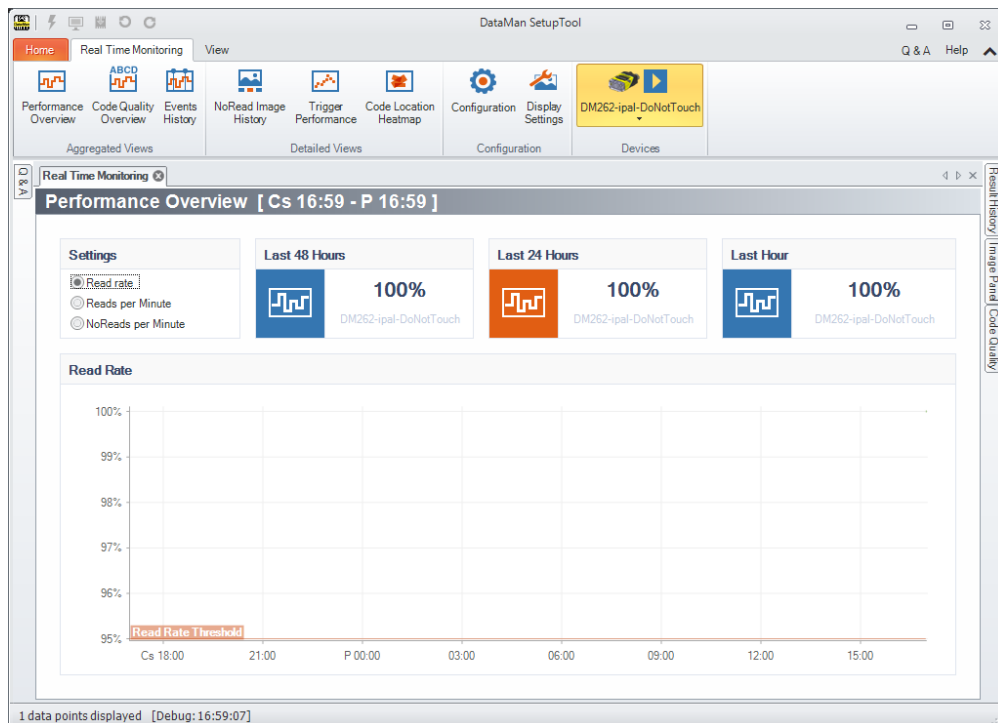
[設定比較] およびその機能の詳細については、そのページの [Q & A] パネルを確認してください。

リアルタイムモニタ

リアルタイムモニタ (RTM) Lean は、DataMan Setup Tool に組み込まれている機能であり、ネットワーク上のデバイスとその読み取りに関連する各種データの収集と分析を行い、そのデータをグラフに表示することができます。RTM Lean は、[接続] ページで通常のデバイスとして接続することができます。



RTM Lean に接続すると、リボンメニューでオプションの設定とモニタを行うことができます。データ取り込みの対象とするデバイス、および収集されるデータのタイプは、リボンメニューの **[Configuration]** で設定することができます。デフォルトでは、RTM Lean は統計データを収集します (読み取り率、読み取り無効数、平均デコード時間、トリガカウント、トリガオーバーラン、バッファオーバーフロー、およびデバイスで有効になっている場合はプロセス管理測定)。

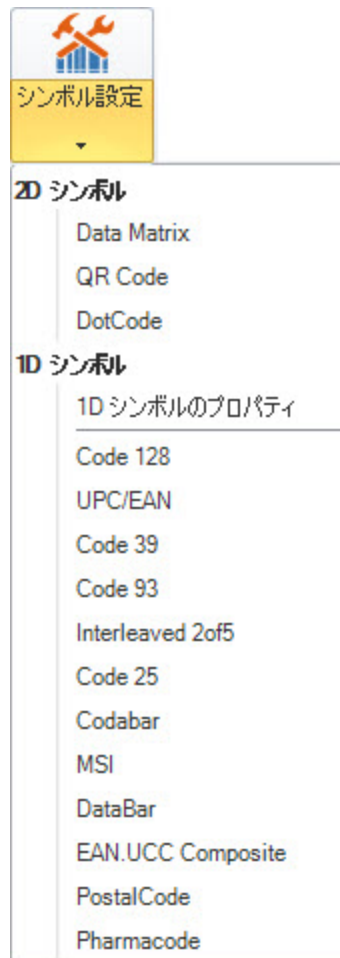


RTM Lean の機能とオプションの詳細については、RTM Lean の **[Q & A]** のヘルプを参照してください。

ナビゲーション

さまざまな機能およびドキュメント間のナビゲーションは、リボンを使用して行います。メインの項目をクリックして、そのサブオプションを開きます。

例:



戻る/進むボタン () を使用して、以前に閲覧したページに移動します。

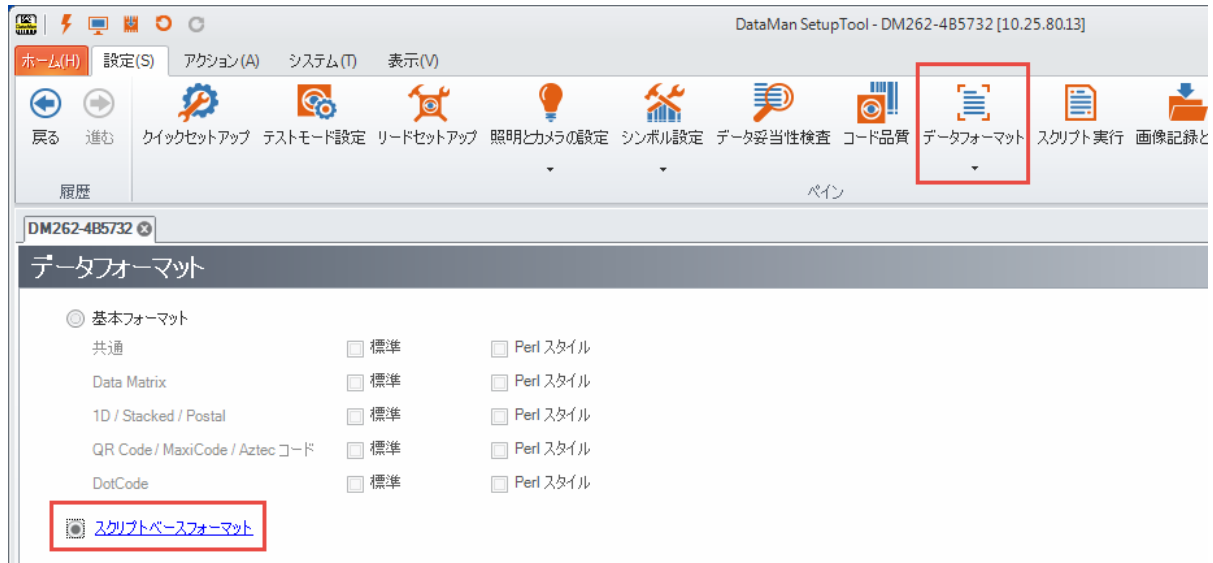
[表示] メニューにある **[同期ナビゲーション]** オプションを使用すると、開いているすべてのデバイスドキュメントで、同じナビゲーション手順が実行されます。つまり、このオプションを選択すると、開いているデバイスドキュメントのそれぞれに、同じナビゲーション手順が反映されます。

スクリプト

注：プラットフォーム: DataMan 50、DataMan 60、DataMan 150、DataMan 260、DataMan 300、DataMan 360、DataMan 503、DataMan 8050、DataMan 8600

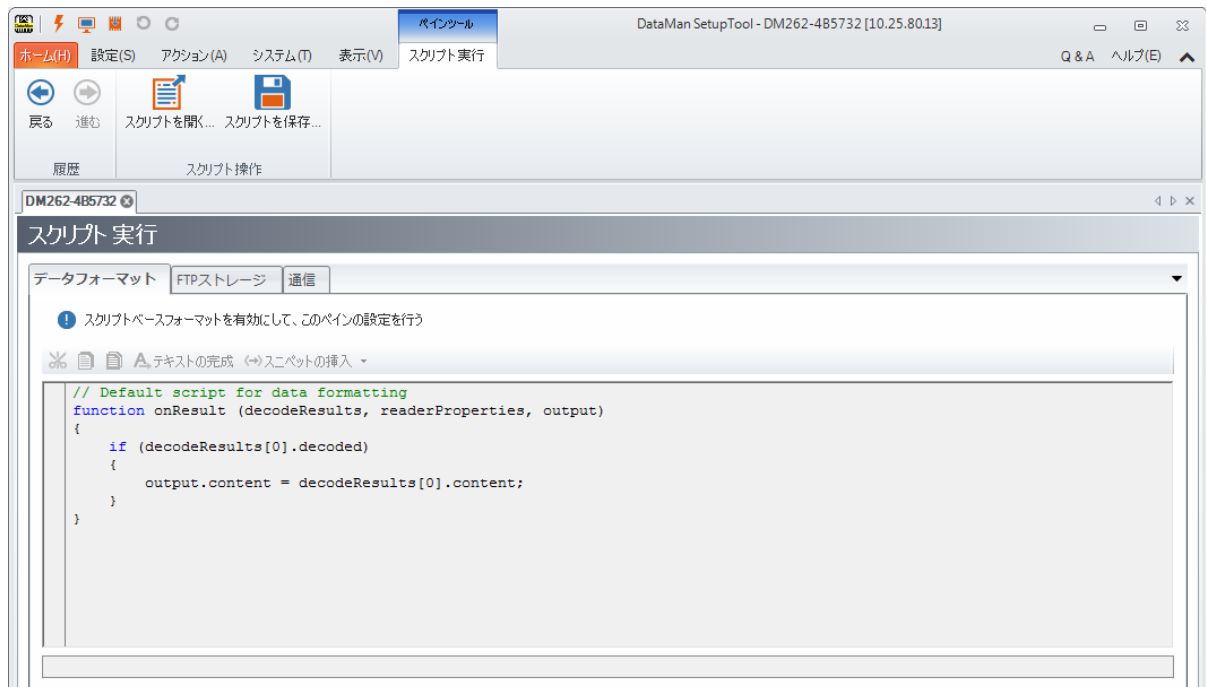
標準のフォーマット操作以外に、DataMan Setup Tool 内でスクリプトを書くこともできます。

[設定] ペインの [データフォーマット] で、スクリプトベースのフォーマットを実行することができます。



スクリプトベースのフォーマットを有効にすると、[データフォーマット] ドキュメントで、ニーズに応じてデータをフォーマットするよう JavaScript モジュールを定義できるようになります。

例:





このドキュメントに移動するには、[設定] ペインの **スクリプト実行** をクリックします。

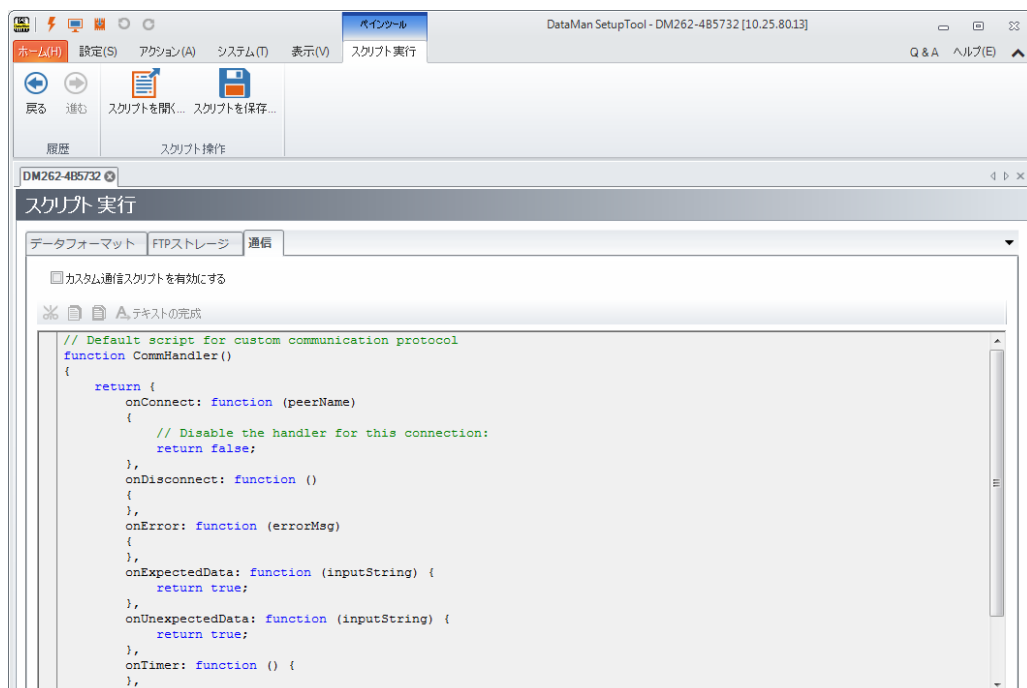
DataMan デバイスで、例えばその画像を FTP サーバにアップロードすると、サーバ上の画像に特定のファイル名が付けられます。このファイル名は、[FTP ストレージ] タブで編集可能なスクリプトを使用してカスタマイズすることができます。

例:



[通信] タブで、カスタム通信プロトコルを編集することができます。

例:



カスタム通信プロトコルについては、『DataMan コミュニケーション&プログラミングガイド』をご覧ください。

データフォーマットのスクリプトは、異なるデータフォーマットの組合せを可能にするだけでなく、出力 1 をブルアップするなど、出力チャンネルの操作も可能にします。読み取り結果を自由に構成することができ、結果が返ってくる前にリーダにイベントを設定することもできます。

『DataMan コミュニケーション&プログラミングガイド』には、スクリプトの書き方やスクリプトのサンプルが紹介されています。スクリプトのサンプルは、[スクリプト] ドキュメントのコンテキストメニューを右クリックすると表示されます。

DataMan Setup Tool の [スクリプト] → [スクリプトを開く] を使用して、作成したスクリプトを開くことができます。

テストモード

注： プラットフォーム: DataMan 50、DataMan 60、DataMan 150、DataMan 260、DataMan 300、DataMan 360、DataMan 503

テストモードでは、ラインを減速したり停止しなくても、生産ラインに接続されたリーダの設定およびテストを行うことができます。テストモードに入るには次のようにします。

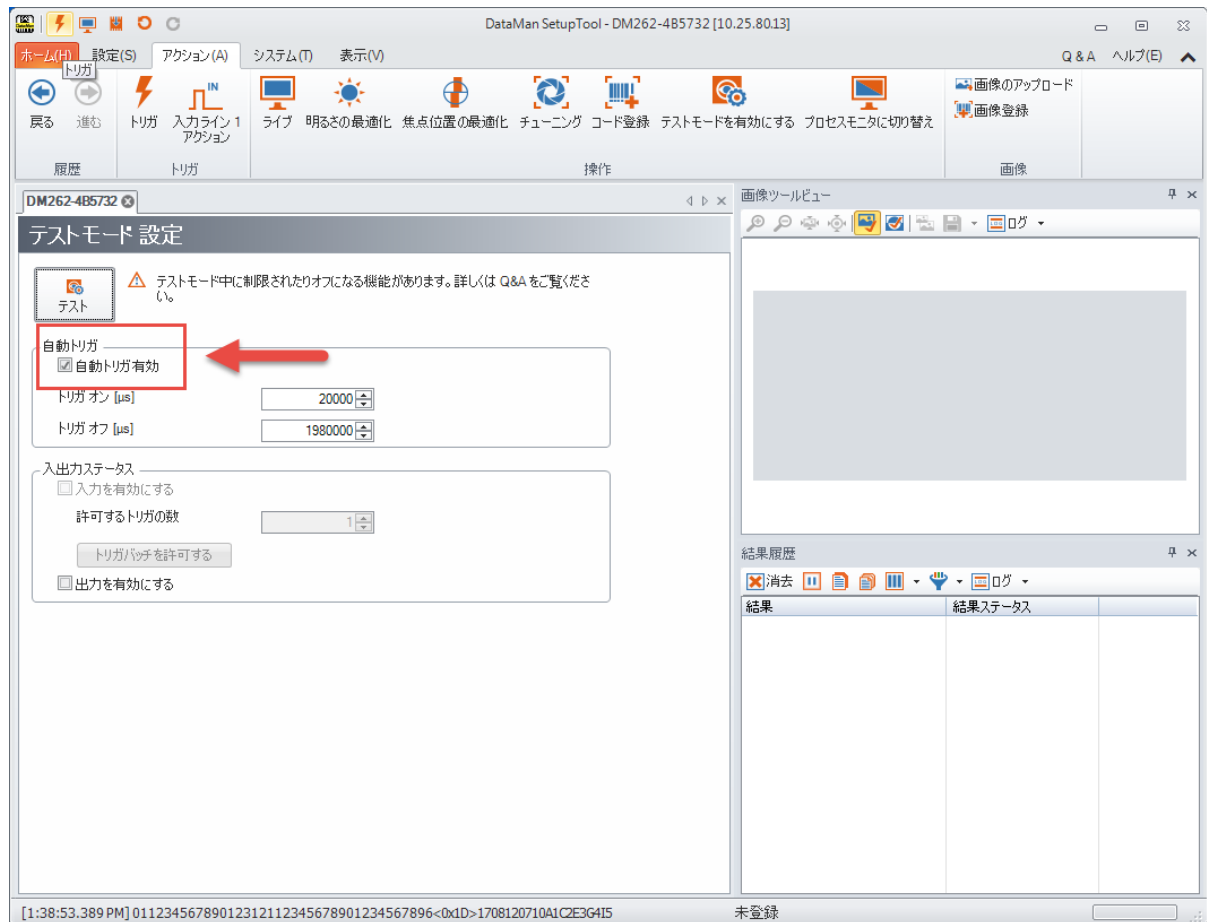
- デバイス上のボタン (事前にこの機能を割り当て済みのもの) を 3 秒間押します。
- DataMan Control Command (DMCC) を送信します。



- DataMan Setup Tool で [テストモードを有効にする] ボタンをクリックします ([アクション] → )。

テストモード中は、リーダはデフォルトですべての外部トリガソースを無視し、すべての入力ラインと出力ラインを無効にします。

[自動トリガ有効] にチェックを入れると、リーダは指定した間隔で外部トリガをシミュレートします。



自動トリガが有効でない場合は、[入出力ステータス] フィールドで [トリガバッチを許可する] をクリックすると、リードは限られた数の外部トリガを生産速度で受け入れ処理します。

いずれの場合も、画像を表示し、生産時の設定でデコードすることができますが、低速で実行され、出力信号をラインに送信することはありません。

テストモードの詳細については、『固定型リファレンス』を参照してください。

リードセットアップ

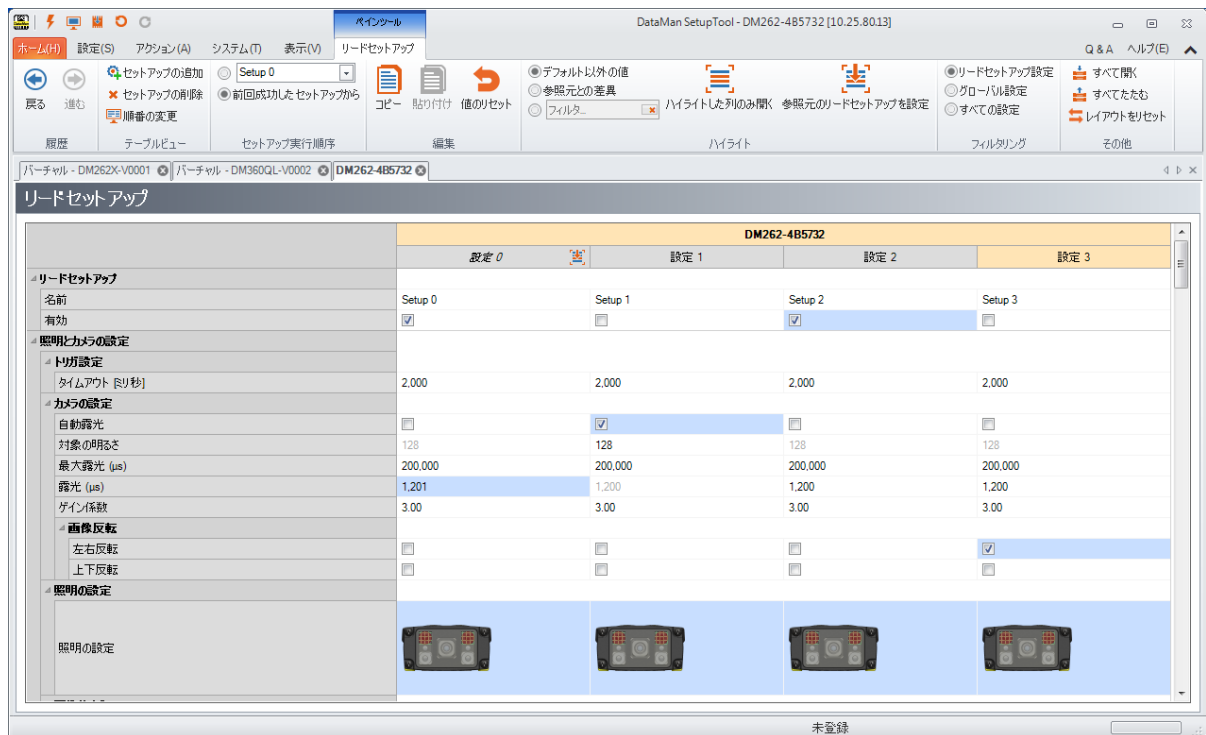
注：プラットフォーム: DataMan 50、DataMan 60、DataMan 150、DataMan 260、DataMan 300、DataMan 360、DataMan 503、DataMan 8600

DataMan リーダに使う画像取得関連の各種パラメータ設定を、1 つの [リードセットアップ] ドキュメントにまとめることができます。



リーダに接続し、[設定] ペインで **リードセットアップ** をクリックすると、[リードセットアップ] ドキュメントが開きます。

例:



リーダには最大 16 個までの異なる設定を入れられます。「シングル」、「連続」、「セルフ」、および「バースト」の各トリガモードで、複数 (もしくはすべて) の設定を有効にできます。DataMan リーダはデコード済み画像があるか、または取り込む画像が無くなる (読み取り画像がない) まで、設定されたイメージの組合せをすべて実行します。

設定のためのパラメータの変更は、[リードセットアップ] ドキュメントの該当するテーブルのセルから行うことができます。

例:

DM262	
設定 0	設定 1
Setup 0	Setup 1
☒	☐
2,000	2,000
☐	☒
128	128
200,000	200,000
1,201	1,200
3.00	3.00
☐	☐
☐	☐
	

リードセットアップの処理は、指定されたセットアップまたは「前回成功したセットアップ」から始まります (随意に選択)。

選択中のセットアップは他のペインにも反映されます。例えば、アクティブな [リードセットアップ] を [設定] ペインで確認することができます。



アクションとシステム

デバイスに接続すると、DataMan Setup Tool で **[アクション]** および **[システム]** タブも使用可能になります。

[アクション] タブでは、入力ラインの設定、リーダのトリガ、ライブ表示の有効化、明るさと焦点の最適化、およびリーダのチューニングを行うことができます。ここで **テストモード** を有効化して、**プロセスモニタ** に切り替えることができます。また、このタブで画像をロードしコードを登録することもできます。



[システム] タブでは、Setup Tool の接続されているデバイスに関連する設定を保存したり、開いたりすることができます。これらのオプションの詳細については、関連するデバイスの **Q & A** ドキュメント (または Setup Tool の **[Q & A]** ペイン) を参照してください。



表示

[表示] タブでは、確認対象のデータに関連するさまざまなビューを表示することができます。次のオプションを使用することができます。



画像ビュー ウィンドを開きます。



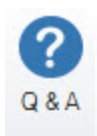
[画像] ツールビューを開き、デバイスによって読み取られた画像を表示することができます。



[結果履歴] ツールビューを開き、読み取り結果の表示および記録を行うことができます。



[コード品質] ツールビューを表示し、コード品質設定を行ったり表示を行うことができます。



[Q & A] ペインを開き、開いているドキュメントに表示されるオプションに関連する質問と回答を表示することができます。



このオプションに付いている下向き矢印をクリックして、選択したペインの表示に使用するレイアウトを選択することができます。



このオプションをクリックすると、実行したナビゲーション手順と同じものが、開いているすべてのデバイスのドキュメントで実行されます。

画像ビューワ

画像ビューワウィンドウはアプリケーションの複数の位置にドッキングでき、ピン留めしたり、マウスを離す時に自動的に非表示になるように設定したりすることができます。



画像ビューワを開くには、[\[接続\]](#) バックステージページでリーダを選択して接続し、[\[表示\]](#) タブに移動します。ここでボタンをクリックして、[画像ビューワウィンドウ](#)を開きます。



リーダで読み取った画像を表示することができるウィンドウです。画像はズーム可能であり、クリップボードにコピーしたり、選択したフォルダに保存したりすることができます。読み取った画像のヒストグラムと、画像中で選択した箇所の明るさ情報を指定して確認することもできます。これらは、ウィンドウに表示されたツールバーのボタンで実行してください。

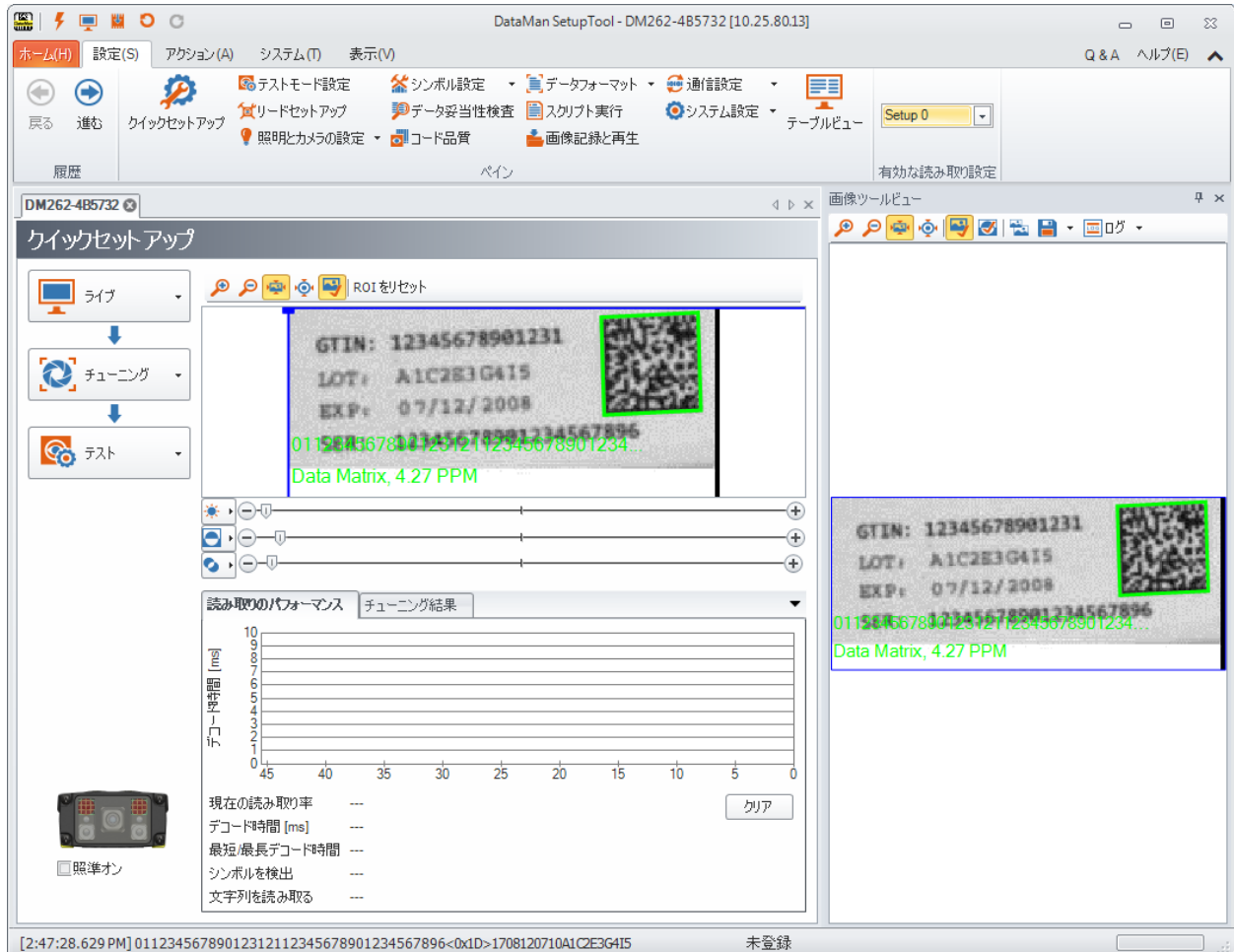


画像ツールビュー

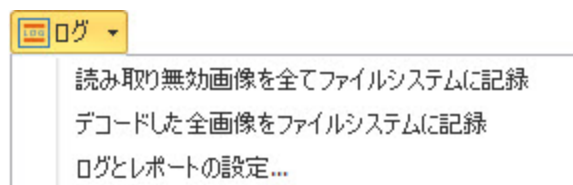
アイ

画像ツールビューを使用して読み取り画像を表示することもできます。これにアクセスするには、[表示] タブのアイコンをクリックします。このウィンドウは、アプリケーション内のさまざまな場所にドッキングすることもできます。

例:



ここでは、画像ビューウィンドウ内と同じズームオプションを使用できますが、このペインから [ログ] オプションを使用して、読み取り無効画像およびデコード済み画像をファイルシステムに記録することもできます。



ここで最下部のオプションをクリックして [Setup Tool オプション](#) ウィンドウを開き、読み取り無効画像およびデコード済み画像のログを保存するフォルダを設定することができます。

マルチリーダのサポートにより、複数デバイスのドキュメントのタブを一度に開くことができます。つまり、同時に複数の画像ソースが存在できるということです。したがって、**画像ビュー**は、現在アクティブなデバイスのドキュメントからのみ画像データを受け取りま

す。現在のドキュメントが画像データを提供できない場合 (例えば [リーダグループエディタ](#) の場合)、[画像ビュー](#) ウィンドウのコンテンツは空になります。

結果ビュー

[画像ビュー](#)と同様に、[結果履歴](#) ペインをさまざまなレイアウトで設定することができます。



[結果履歴] ペインを開くには、[接続](#) バックステージページでリーダを選択して接続し、[表示](#) タブに移動します。ここでボタンをクリックして、[結果履歴](#) ペインを開きます。

現在アクティブなドキュメントに提供するデータがある場合は、そこから結果データが取得されます。そのようなデータがない場合は、[結果履歴](#) は空になります。

注： プロセスモニタおよびリーダ統計値は、最新のデータだけでなく「すべての」データを提供しますが、読み取り画像については最新のデータのみが表示されます。

The screenshot shows the DataMan Setup Tool interface with the Results History (結果履歴) pane open. The main window displays a live video feed of a barcode with the following text: GTIN: 12345678901231, LOT: A1C2E3G4I5, EXP: 07/12/2008. Below the video feed, there is a section for '読み取りのパフォーマンス' (Reading Performance) showing a graph and various statistics.

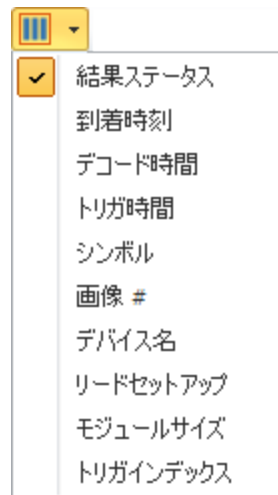
読み取りのパフォーマンス

項目	値
現在の読み取り率	90%
デコード時間 [ms]	72 ms
最短/最長デコード時間	72 ms - 211 ms
シンボルを検出	Data Matrix
文字列を読み取る	01123456789012312112345678901234567896<0x1D>1708120710A1C2E3G4I5

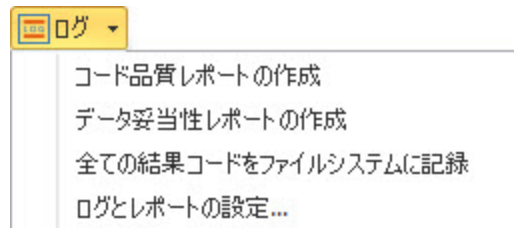
結果履歴

結果	結果ステータス
01123456789012312112...	読み取り
safne0a[jfwssef	読み取り
01123456789012312112...	読み取り
01123456789012312112...	読み取り失敗
01123456789012312112...	読み取り
01123456789012312112...	読み取り
01123456789012312112...	読み取り

オプションでこのペインのレイアウトをカスタマイズすることができます。つまり、テーブルの列に表示するデータを選択することができます。



記録するデータを [ログ] ドロップダウンリストから選択します。



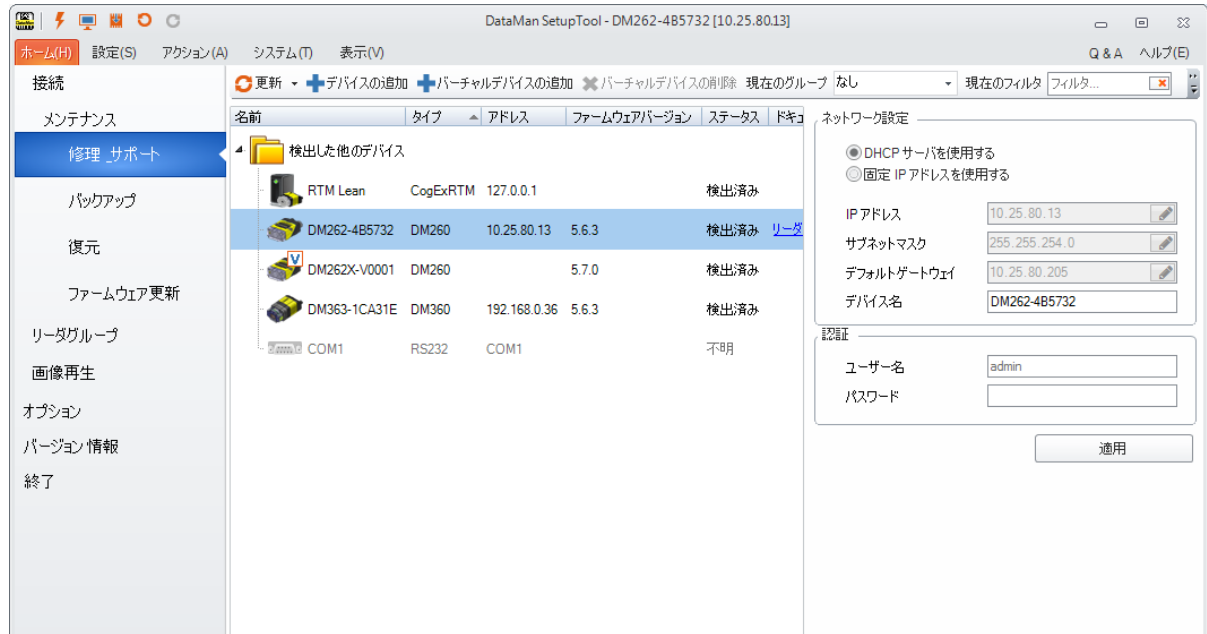
ここで最下部のオプションをクリックして [Setup Tool オプション](#) ウィンドウを開き、結果コードのレポートとログを保存するフォルダを設定することができます。

バックステージページ

DataMan Setup Tool のバックステージページの初期表示は[接続](#)となっており、本書の前半で説明しました。この節には、他のバックステージページに関する情報として、[修理 サポート](#)、[バックアップ](#)、[リストア](#)、[ファームウェア更新](#)、[リーダグループ](#)および[画像再生](#)について記載しています。

メンテナンス

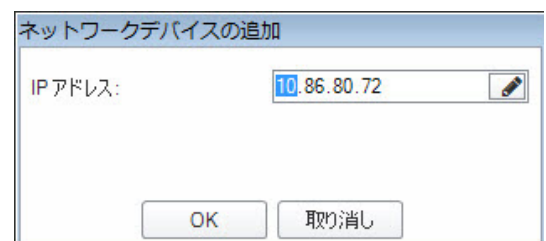
[メンテナンス] ページを使用して、設定が不適切なネットワークデバイスのネットワーク設定を行ったり、シリアルデバイスの HID モードを CDC に変更したり、デバイス設定のバックアップとリストアを行い、ファームウェアの更新ができます。



検出されたデバイスの全リストを表示するには、[すべてのデバイスを表示] オプションにチェックを入れます。次に、設定を変更するデバイスをリストから選択し、右側の [ネットワーク設定] および [認証] ボックスに必要なデータを入力します。

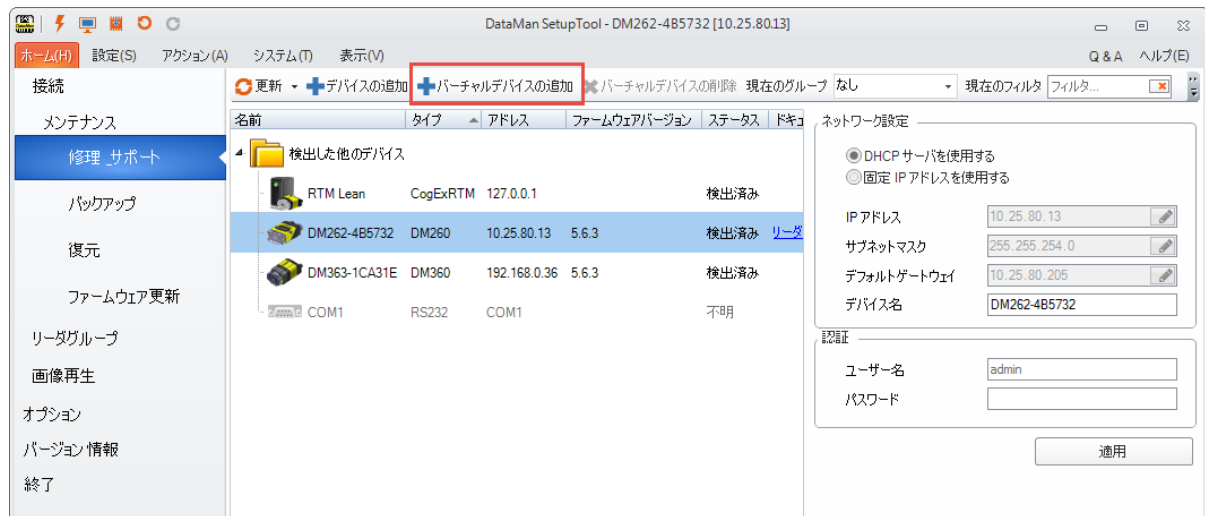
ネットワークデバイスを追加するには、[+ デバイスの追加](#) をクリックします。

[ネットワークデバイスの追加 / 編集] ダイアログに、必要な情報 (追加するデバイスの IP アドレス) を入力します。[OK] をクリックして変更を保存し、[更新] をクリックしてリストに追加されたデバイスを表示します。



バーチャルデバイス

[バーチャルデバイスの追加] 機能によって、カスタムの設定ファイルまたはデフォルトの設定に基づいて、バーチャルデバイスを作成することができます。これによってデバイスを接続することなく Setup Tool のさまざまなペインを表示できます。



このボタンを押すとウィザードが開始され、バーチャルデバイスの作成手順を誘導します。まず初めに、作成のために設定/バックアップファイルを使用するか、出荷時のデフォルト設定を使用するかを選択します。

Create Virtual Device

Device settings

Provide information about the virtual device.

Device name:

DM303X-V0001

Device type:

DM300 Series

Firmware version:

5.6.3

Device model:

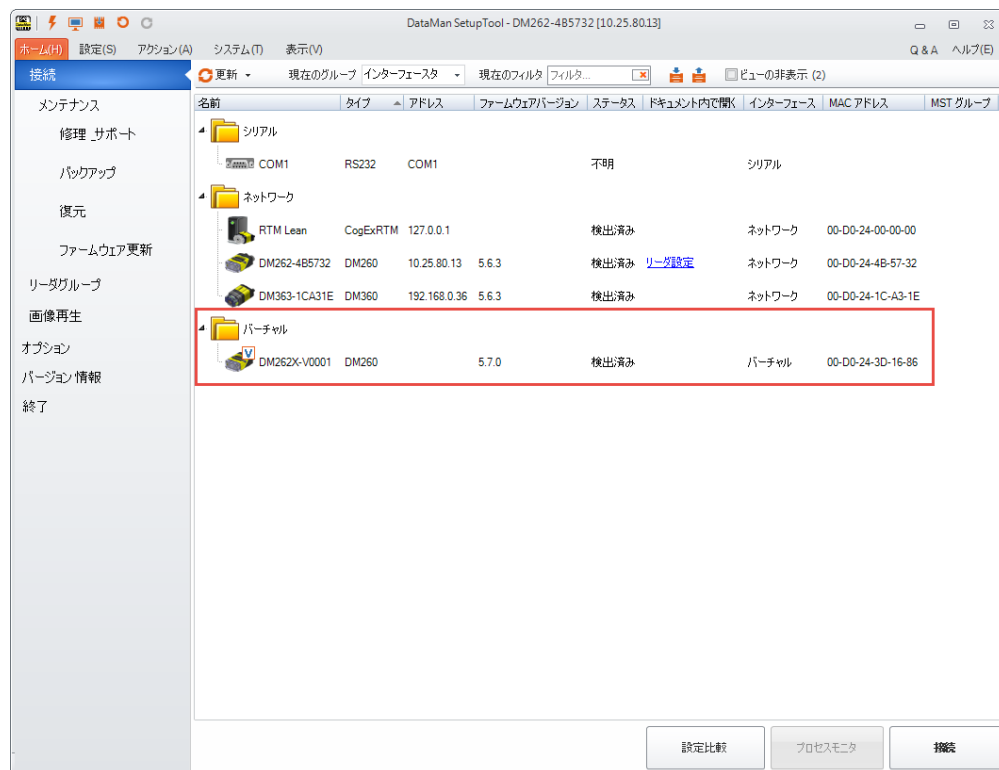
DM303X

< Back

Finish

Cancel

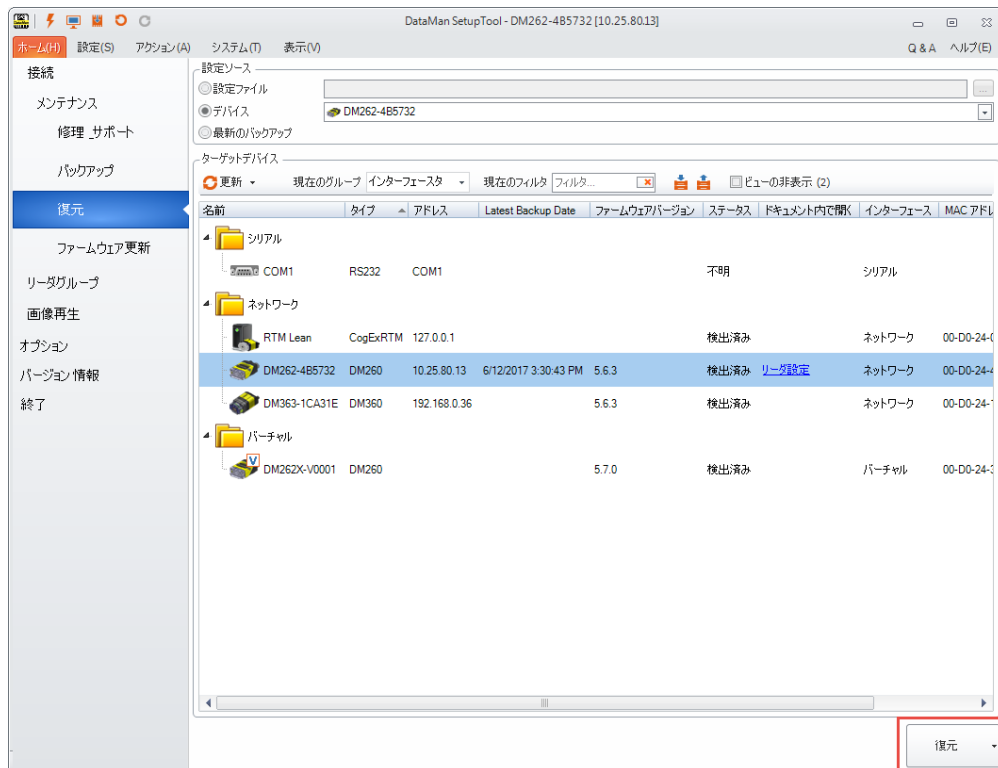
ウィザードが終了すると、検出デバイスのリストに新しいバーチャルデバイスが追加され、バーチャルデバイスは  のようなVアイコンで示されます。作成されたバーチャルデバイスは、ネットワーク上の他のデバイスには見えません。Setup Tool の複数のインスタンス間で、バーチャルデバイスは保持されます。



作成されたバーチャルデバイスは、通常のデバイスと同じ方法で接続できますが、例外として、設定変更はすべて拒否され (すべて読み取り専用)、バーチャルデバイス上で動作する機能、関数、アクションはありません。

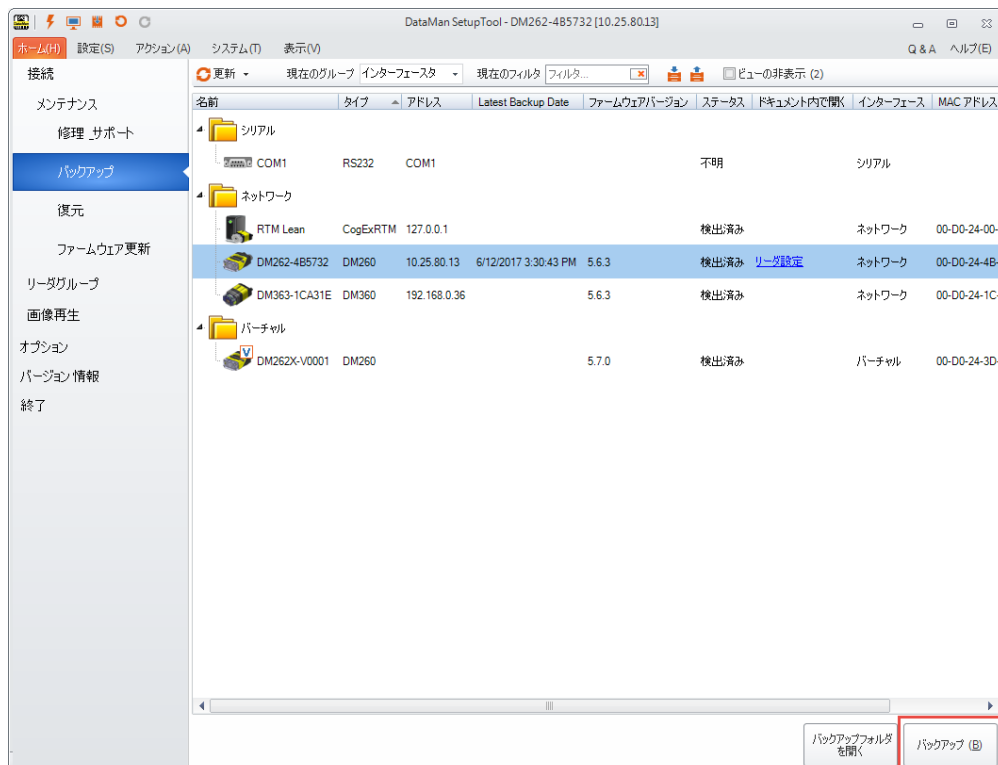
復元

[復元] ページでは、バックアップされた設定ファイルを 1 台以上のデバイス上に復元することができます。少なくとも 1 台のデバイスが選択され、有効な設定ソースが指定されている場合にのみ、この機能を使用することができます。上部の **[設定ソース]** を使用して、Setup Tool が復元に使用するソースを設定することができます。



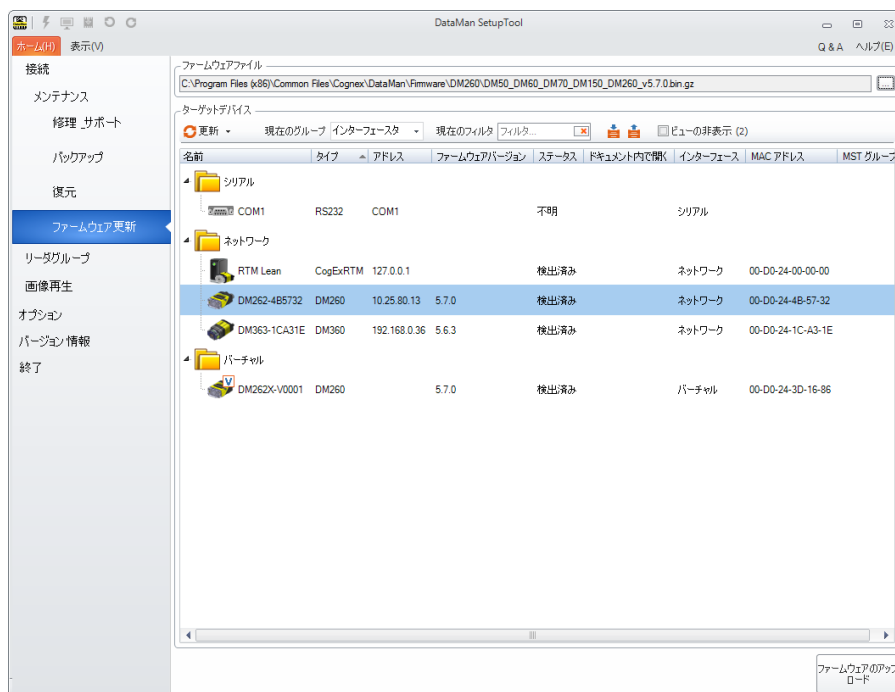
バックアップ

[バックアップ] ページを使用して、1 つ以上のリーダの設定およびログを含むバックアップファイルを生成することができます。そのためには、バックアップするデバイスを選択して、右下にある [バックアップ] ボタンをクリックします。[バックアップフォルダを開く] ボタンをクリックすると、簡単にバックアップファイルを見つけることができます。



ファームウェア更新

[ファームウェア更新] ページで、選択した 1 台または複数のデバイスを、ご希望のファームウェアのバージョンに更新することができます。ファームウェアファイルを参照するために [...] アイコンをクリックすると、ポップアップウィンドウで自動的に正しいフォルダに移動できます。ファームウェアファイルを選択したら、**[ファームウェアのアップロード]** ボタンをクリックして更新を開始します。



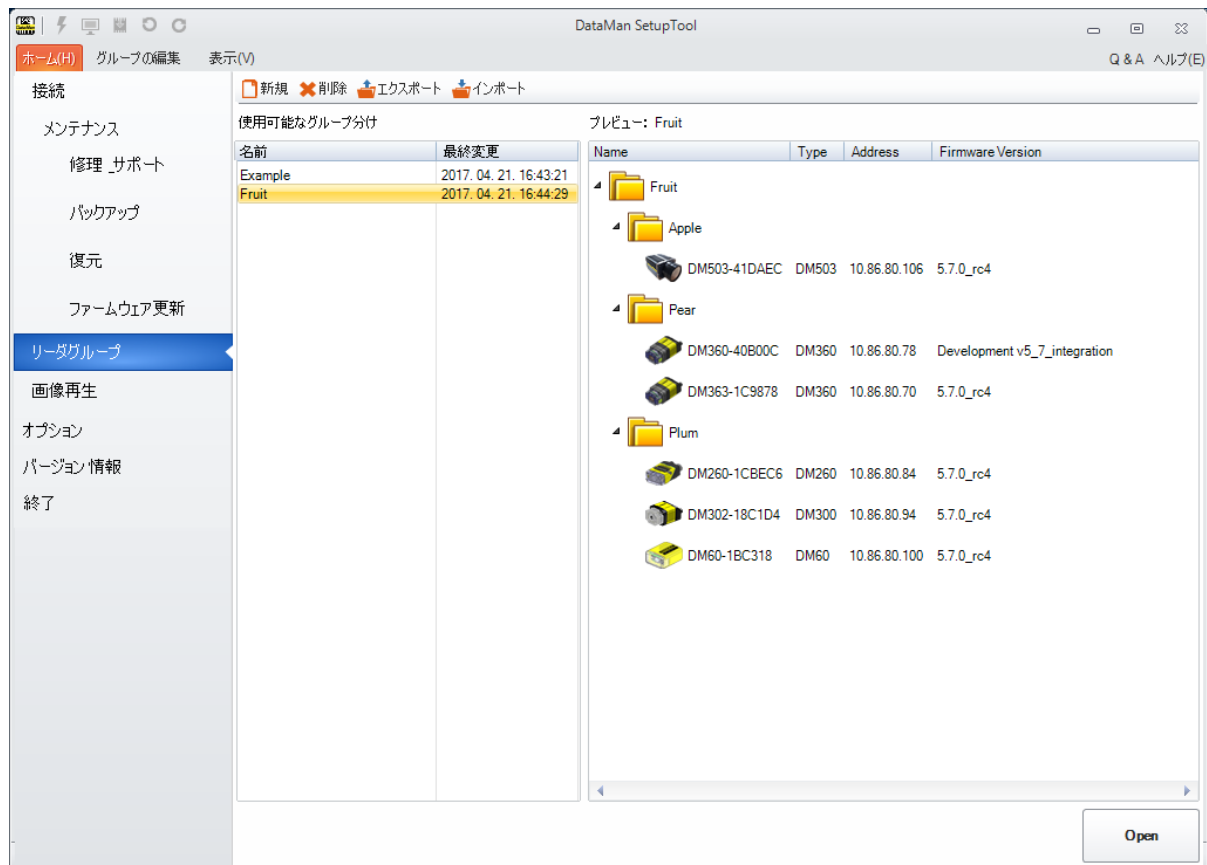
デバイスのグループ分け

デバイスのグループ分けによって多数のデバイスを管理し、マスタスレーブグループを簡単な方法で定義することができます。DataMan Setup Tool では、デバイスリストページに組み込みのグループを用意しており ([\[接続\]](#) バックステージページの節を参照)、独自のカスタムグループを指定することもできます。新しいユーザ定義グループの作成や、既存のグループの編集は、[\[リーダグループ\]](#) バックステージページから開始することができます。

リーダグループ

利用可能なリーダは自由にグループ分けができるほか、ツリー構造でリーダを管理することも可能です。既に作成されているカスタムグループのリストは、左側に表示されます。カスタムグループを選択すると、右側に「プレビュー」として表示されるようになっています。

例:

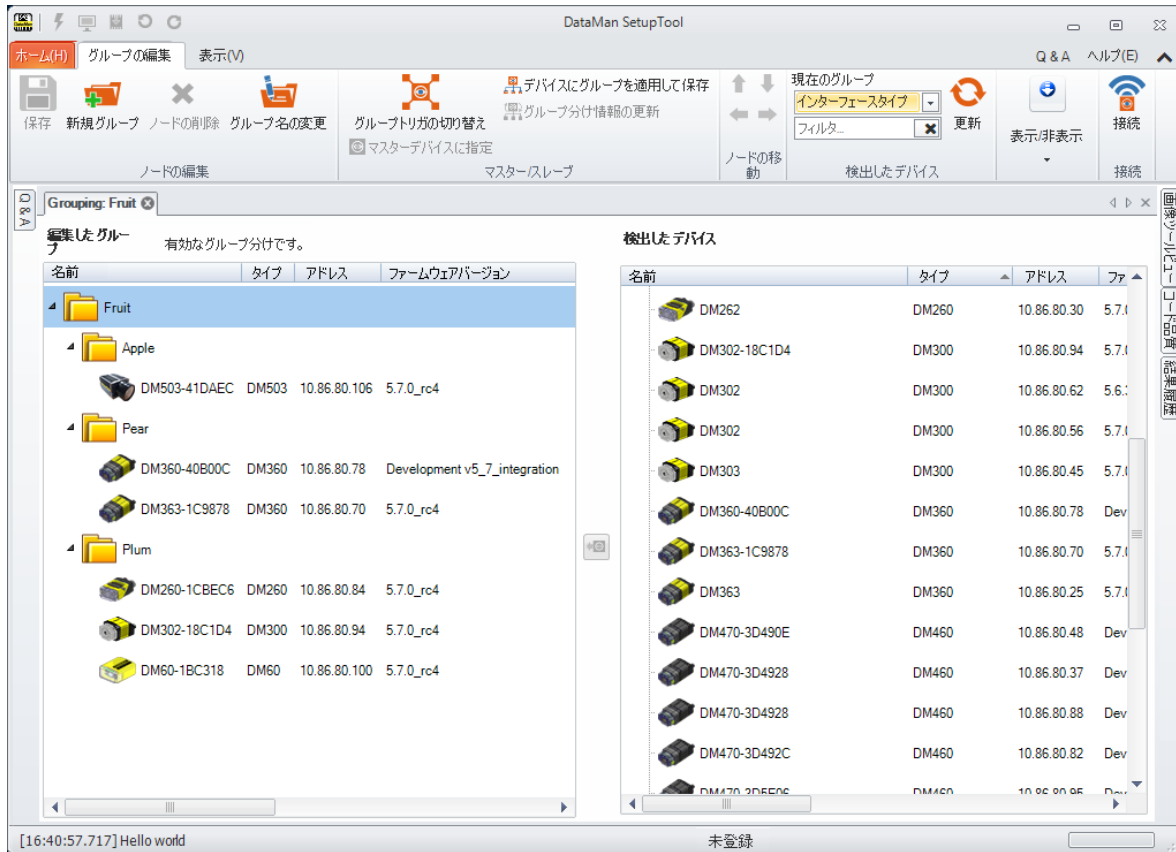


このページでは次のオプションを使用することができます。

- 既存のグループを開く
- 新規グループを作成する
- 既存のグループを削除する
- 既存のグループをエクスポートする
- 保存したグループを Setup Tool にインポートする

カスタムグループ分け

カスタムグループ分けは、ツリー構造で表示されます。この種類のドキュメントに属するリボン上のボタンを使用し、さまざまなノードを選択して各種の操作を開始することができます。グループエディタツリーは、ドラッグ & ドロップ機能もサポートしています。



グループエディタツリーには 2 つのデバイスツリーコントロールがあります。左側のコントロールは現在編集されているグループのツリーであり、右側のコントロールは検出されたデバイスのリストです。このデバイスツリーでフィルタ、グループ分け、およびソートを行うことができます (詳細については、「[接続](#)」を参照してください)。グループの編集には次の方法があります。

- 新規グループの作成:** 新しいグループが作成されると、自動的にルートノードが設定されます。ルートノードの名前は、カスタムグループの名前でもあります。各グループにつきルートノードは 1 つだけ存在できます。新しいグループを作成するには、適切なノード (デバイスノードは使用しないでください) を選択して、[新規グループ] ボタン () をクリックします。
- グループノードにデバイスを追加する:** 右側のデバイスツリー (検出したデバイス) から 1 台以上のデバイスを選び、[検出したデバイスの追加] () ボタンで左側の現在選択されているグループノードに追加します (編集したグループ)。もしくは、デバイスを右から左側の目的のグループノードにドラッグ & ドロップすることも可能です。
- デバイスまたはグループノードの削除:** 左側から目的のノードを選び、リボン上の [ノードの削除] () ボタンをクリックします。

- ・ **グループ名の変更:** ノードの名前をクリックし、キーボードの F2 キーを押すか、[グループ名の変更] ボタン (



) をクリックします。ルートノードの場合はグループ全体の名前が変わります。上記の方法のいずれかで名前の変更を実施すると、グループ名がツリー内で編集可能になります。

- ・ **ノードの移動:** 編集したツリー内でノードを移動することができます。現在のグループ内で上下に移動したり、次のグループへ



の移動や現在のグループから外すことが可能です。移動対象のノードを選択した後、リボン上で オプションが使用可能になり、次の矢印が緑色になります。

- ・ 下 ↓: 兄弟ノードの下へ移動します。
- ・ 上 ↑: 兄弟ノードの上へ移動します。
- ・ 現在のグループ外 ←: ノードを 1 レベル上に移動します (現在のグループから外れます)。
- ・ 次のグループへ →: ノードを 1 レベル下に移動します (次のグループに含まれます)。



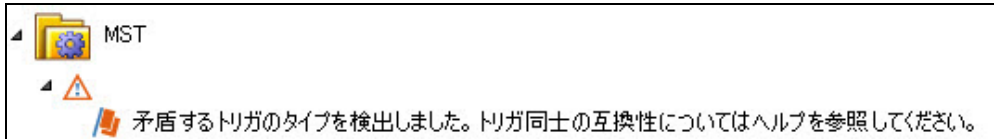
表示/非表示ボタン () はツリー全体で使用できます。また、ノード左側の三角形をクリックすると特定のノードを表示または非表示にできます。

マスタスレーブグループの管理

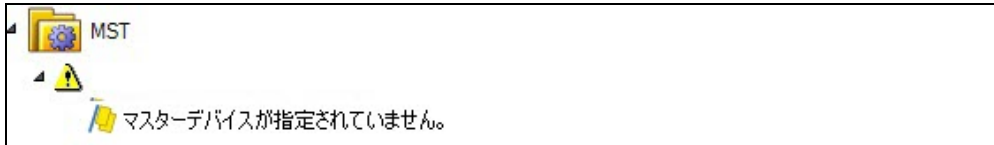
DataMan Setup Tool では、マスタスレーブ設定は [グループ編集](#) の一部ですが、リボンにもマスタスレーブトリガグループを設定するツールがあります。次のマスタスレーブグループ管理オプションは、Setup Tool から使用できます。

- ・ **グループをマスタスレーブトリガ (MST) グループにする:** 有効なグループノードを選択して (このグループ名は MST グループ名に一致します)、[グループトリガの切り替え] ボタンを押すと、グループ内のデバイスが MST グループの一部としてグループノード名の名前で設定されます。このオプションは、すべてのリーダーがマスタスレーブトリガをサポートするグループ内にある場合にのみ使用可能になります。
- ・ **マスタスレーブグループトリガをクリアする:** MST グループノードを選択して [グループトリガの無効化] ボタンをクリックすると、グループ内のすべてデバイスから MST グループのエントリが削除されます。
- ・ **マスタデバイスに指定する:** 一部のトリガモードでは、マスタデバイスを明示的に指定することが必要になる場合があります。これを実行するには、マスタスレーブグループ内のデバイスを選択して、[マスタデバイスに指定] ボタンをクリックします。特定のマスタデバイスを必要としないトリガの種類の場合にも、この機能を使用することができますので、カスタム編集したグループに格納して、後で表示することができます。
- ・ **設定が不適切な MST グループ:** デバイス内のマスタスレーブグループトリガに関するデータが、SetupTool に格納されたデータとは異なっている可能性があります。そのような場合には警告が表示され、これらの問題を特定することができます。警告メッセージは次のとおりです。

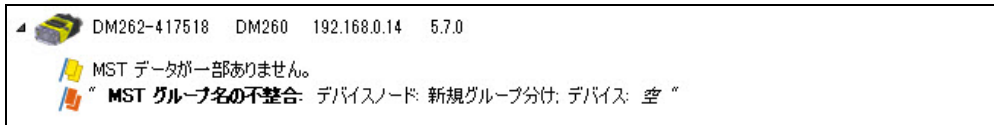
- ・ **トリガの種類に互換性がありません:** MST グループ内のデバイスのトリガの種類に互換性がない場合、MST グループのノードに、この情報を示す警告サブノードが含まれています。これはエラーです。



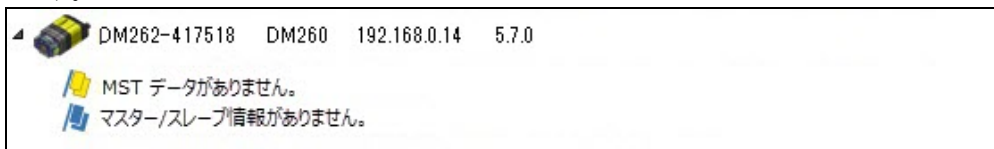
- ・ **マスターデバイスが指定されていません:** MST グループはマスターデバイスを必要としない場合がありますが、一部のトリガモードでは必要とするので、このメッセージは警告としてのみ表示されます。



- ・ **MST グループ名の不整合:** デバイスに格納されている MST グループ名が、自身のグループに格納されている名前と異なっている可能性があります。これは大きな問題とみなされるので、エラーとして表示されます。



- ・ **MST データがありません:** マスター/スレーブグループトリガ設定に関する正確な情報を検出するには、少なくとも「必要最低限」接続が必要です。**[更新]** ボタンを押して有効な情報を取得するまでの間、デバイスに関するこの情報のエントリが表示されます。

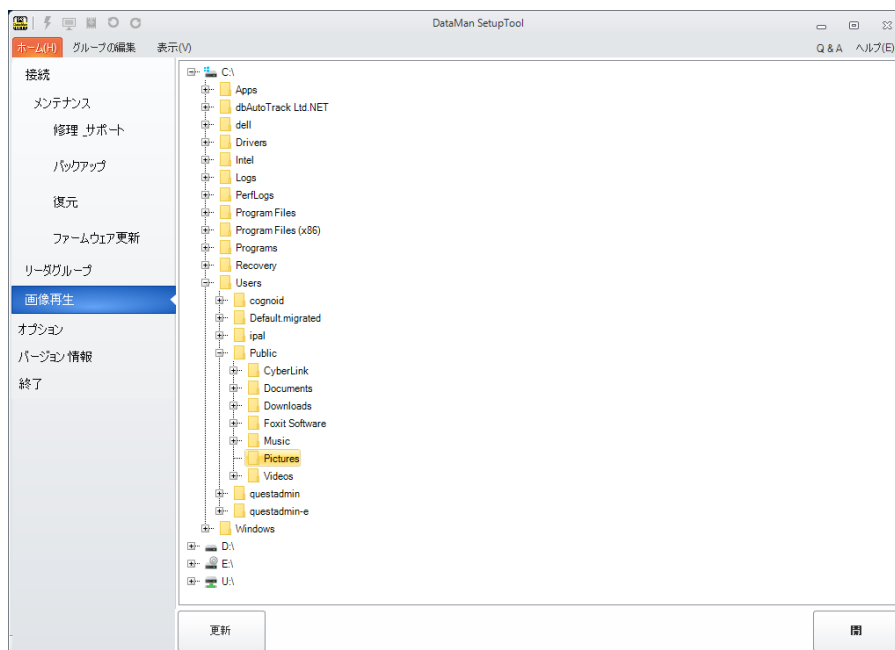


注:
アイコン:

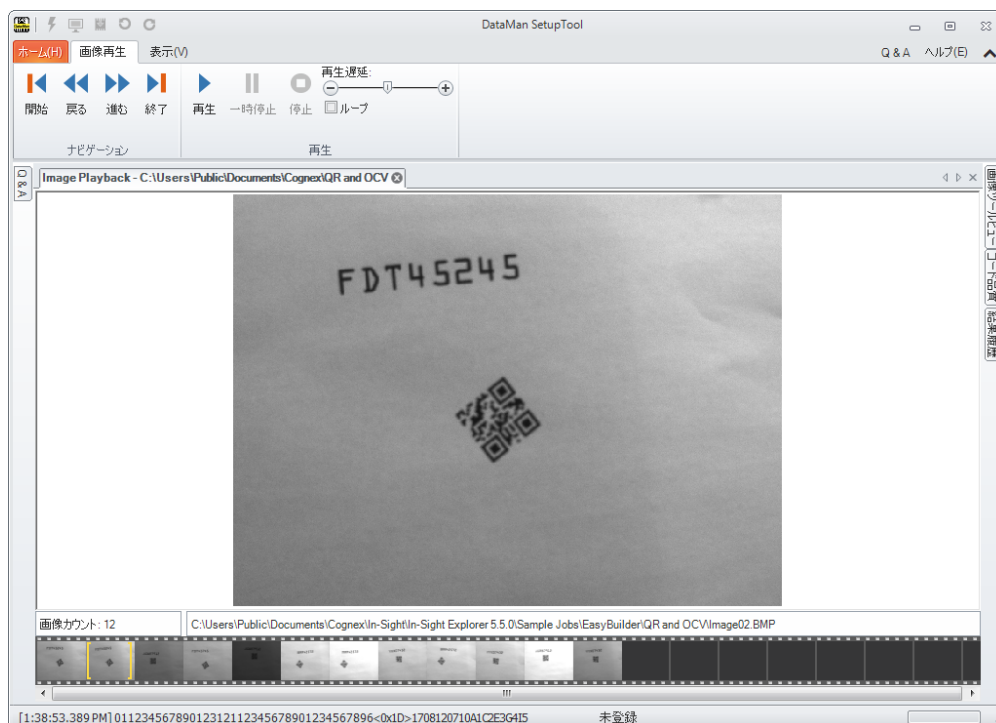


画像再生

このバックステージページの情報は、リーダを DataMan Setup Tool に接続しなくても使用することができます。このページでは記録され PC に保存された画像の管理や、[設定] → [画像記録と再生] で設定した、コンピュータに転送済みの画像の閲覧ができます。



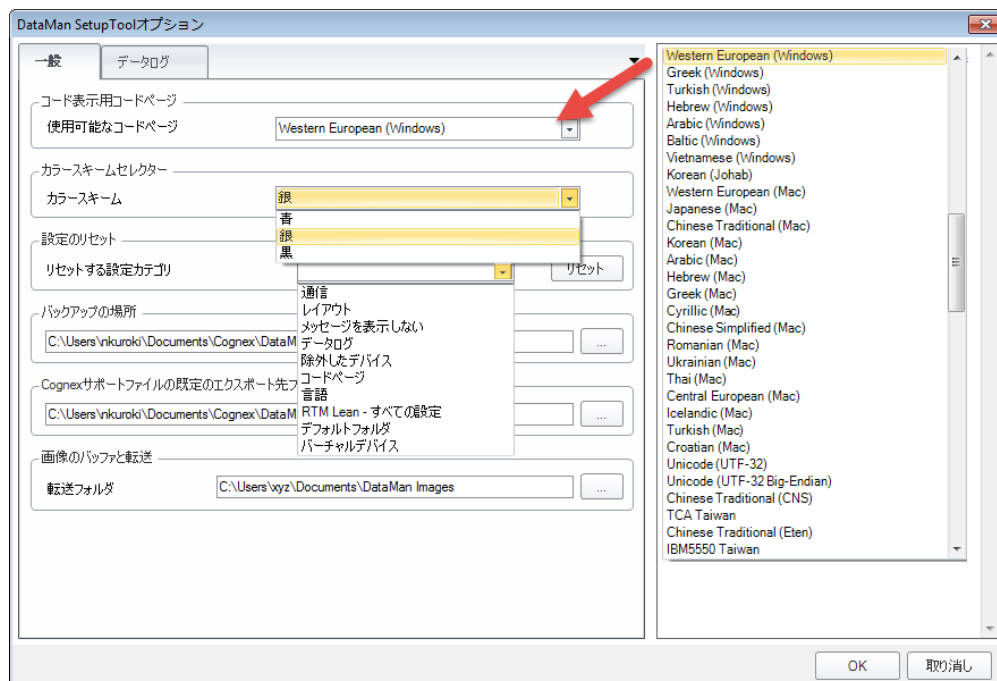
画像は [画像再生] タブで開きます。



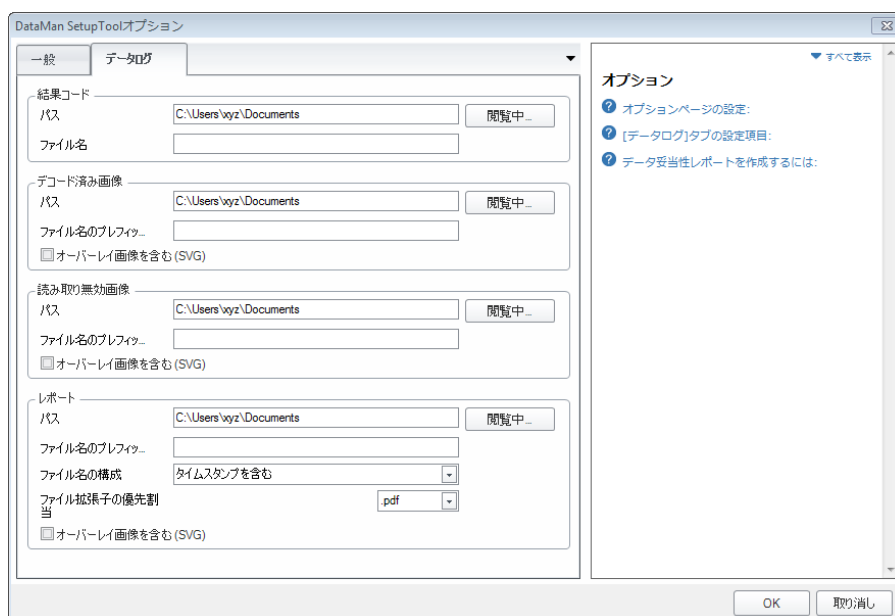
オプション

DataMan Setup Toolの [オプション] ダイアログでは、目的に応じてアプリケーションの設定ができます。

[一般] タブで、読み取った文字列の表示方法を設定することができます。ここでは、Setup Tool 自体のカラースキーム (銀、青、または黒) を選択したり、デフォルトにリセットするカテゴリ (レイアウト、通信、言語、コードページ、またはデータログ) を選択したりすることもできます。



[データログ] タブで、「結果コード」、「デコード済み画像」、「読み取り無効画像」、および「レポート」を保存するフォルダを設定できます。



ヘルプ

DataMan Setup Tool の使用時に、強力なヘルプによって、使用可能なオプションおよび設定に関する疑問に対する回答が見つかります。

DataMan Setup Tool を開くと、ウィンドウの右上隅に **ヘルプ(E)** ボタンが表示されています。これをクリックすると、Setup Tool に



オプションが表示されます。このボタンをクリックして、現在使用している Setup Tool のバージョンに関する基本情報を表示します。



注： このウィンドウは、[ホーム] バックステージで **バージョン情報** をクリックして表示することもできます。

このオプションで、Setup Tool に関する基本データを取得することができます。ただし、Setup Tool のそれぞれのタブ、ペイン、およびドキュメントにも、機能およびオプションに関する情報が備えられています。

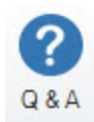
バックステージページの  ボタンをクリックすると、そのバックステージページに関連する [Q & A] が開きます。例えば、**リーダグ ループ** バックステージでこのボタンをクリックすると、次の質問が表示されます。

リーダへの接続

- ? リーダと Setup Tool の接続方法:
- ? Setup Tool が、リーダへの接続に失敗する理由:
- ? デバイスのアイコン右上にオーバーレイのアイコンが表示される理由:
- ? バーチャルデバイスとは:
- ? USB 接続に使用するポート:
- ? それでもリーダまたはベースステーションに接続できない場合のリセット方法:
- ? 接続するリーダの確認
- ? 緑色で表示されたデバイス:
- ? プロセスモニタの働き:
- ? DataMan 50、60、70、300、503、8000 シリーズ、MX-1000、MX-1500、および DataMan 8000 ベースステーション: 接続時に Setup Tool がパスワードを要求する理由:
- ? DataMan 60、300、503、8000 シリーズ、および DataMan 8000 ベースステーション: PCとリーダを Ethernet 経由で直接接続する方法:
- ? DataMan 60、300、503、8000 シリーズ、MX-1000 および DataMan 8000 ベースステーション: ネットワークデバイスリスト内のリストで特定のリーダをマッピングする方法:
- ? DataMan 60、300、503、8000 シリーズ、MX-1000、MX-1500、および DataMan 8000 ベースステーション:

質問の前にある小さな疑問符をクリックすると、関連する回答が表示されます。

または、▼ Show All をクリックすると、[Q & A] ペインに表示されている質問に対するすべての回答が開きます。



デバイスに接続した後、[表示] メニューに移動して をクリックすると、それぞれのドキュメントおよびオプションに関連する [Q & A] ペインにアクセスすることができます。

トラブルシューティング

画像取得

現象	場所	解決策
画像に関連するプロパティを変更することができない。	[設定] → [照明とカメラの設定]	デバイスが画像の取得やデコードを終了するまで待ち、もう一度操作します。

通信

現象	場所	解決策
Setup Tool の通信が損なわれている。		コンピュータにインストールされているファイアウォールやアンチウィルスアプリケーションを確認してください。これらが Setup Tool の通信の妨げになっている可能性があります。このような通信の問題は、適切なポートで通信を確立して解決することができます。
[検出したデバイス] のリストに使用中のリーダが表示されない。	接続 リーダメンテナンス	1. リーダと Ethernet の接続を確認してから、[更新]をクリックします。 2. スタートメニューからリーダ設定コードドキュメントを表示して、[DHCPを有効にする]コードをスキャンします。この操作を行うと、リーダはサブネット上の DHCP サーバから有効な IP アドレスを取得できます。 3. それでもリーダが表示されない時は、[リーダメンテナンス] の [デバイスの追加] を試してみてください。 4. RS-232接続を利用して、リーダに Ethernet ネットワーク通信用パラメータの設定を行うこともできます。

